

科目名 (英)	インフォメーションテクノロジー I (Information Technology)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小野寺幸子
学科・専攻	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
教員の略歴	株式会社日立製作所で営業・インストラクターを経て、東北六県で企業、役所、自衛隊、専門学校、短大ほかでパソコンの研修を担当						
授業の 学習内容	社会に通用する仕事のツールとしてコンピュータは必須です。 Word、Excelの基本操作はもちろん、PowerPointでの発表の場も業種問わず増えています。スマホやタブレットの慣れからキーボードが使えない人がいる現状の中、パソコンの基礎が一番大事です。 簡単な案内文書からチラシやポスター作りへの応用、またExcelの表を自在にグラフ化など操作、編集できるようにする。 Power Pointでは、スライドを思い通りに作成し、様々な場面で自分を表現できるように力をつけていく。 授業を通じて3つのアプリケーションの最低限の基礎をしっかりと使えるようになってほしい。						
到達目標	10分間タイピング 400字以上入力できる。 Wordで仕事で通用するように効果的な文書が30分程度で作成できる。 Excelを使用して表からグラフ化まで作成できる。 Power Pointを使用して明確に自分の伝えたいことをスライドに表現ができようにする。						
評価方法と 基準	1) 定期試験: Word50% (社外文書が60分以内で作成できるか評価) PowerPoint30% (与えられたテーマを盛り込みスライド5枚で表現できるか評価) 2) 態度・提出物: 20% (授業内での課題の取り組みで評価)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	PCの基本操作とアプリの起動ができる タイピング、ダウンロード確認	
2		演習	第1章 文書の効率の良い編集をすることができる (オートフォーマット、書式設定)	
3		演習	第2章 便利な機能の使い方、基本文書の 作成が作成できる	第2章復習問題
4		演習	第3章 オブジェクト(画像、図形)を活用し た文書作成ができる	第3章復習問題
5		演習	第5章 簡単な表が作成できる	プリント課題提出
6		演習	第1章 Excel基本操作、入力、範囲選択、 保存ができる	
7		演習	第2章 数式と基本の関数、書式設定が できる	第3章復習問題
8		演習	第4章 グラフ機能(棒グラフと円グラフ)で 表現できる	第4章復習問題
9		演習	Excelのまとめ 課題作成	課題提出
10		演習	PowerPointの基本操作、作成、編集が できる	プリント演習
11		演習	オブジェクトの挿入、アニメーション、画面 切り替えを使いこなすことができる	
12		演習	テーマ課題作成実習	PowerPoint演習問題課題①
13		演習	前期まとめ・teamsへアップロード確認	
14		演習	後期本試験 Wordでの文書作成テスト	
15		演習	テーマ課題作成・teams提出	10分タイピングテスト
準備学習 時間外学習			演習問題等で操作を復習する。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
株式会社滋慶出版 COMPUTER BASIC WORD2019、Excel2019				

科目名 (英)	キャリアデザイン I (Career Design I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	佐々木 麻衣
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	通年
教員の略歴	SCA2012年卒 公益財団法人 東京動物園協会(恩賜上野動物園)、公益財団法人 鹿児島市公園公社(平川動物公園)等勤務						
授業の学習内容	クラス全体での情報共有の場とし、チームワーク・結束力を高める キャリア形成のために必要な社会人としての基礎を身につける						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 人の気持ちを理解できる、相手を思いやり行動できるようになる 「報・連・相」の大切さを理解し、実践できるようになる 						
評価方法と基準	授業内評価:60% テスト:40%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	4月10日	講義	自己紹介/学生としての心構えが理解できる	復習	
2	4月24日	〃	ITリテラシーについて理解できる		〃
3	5月8日	〃	見学実習の準備が理解できる(那須ガイダンス)		〃
4	5月22日	〃	演習の準備が理解できる(羊毛刈りガイダンス)		〃
5	5月29日	〃	見学実習・演習振り返り		〃
6	6月12日	〃	レポートの書き方を理解できる		〃
7	6月19日	〃	レポートを作成することができる		〃
8	6月26日	〃	イベントの企画について理解できる		〃
9	7月3日	〃	イベントを主体的に運営できる		〃
10	7月10日	〃	個人毎に自己評価・目標設定ができる		〃
11	7月17日	〃	口頭発表の難しさと工夫の必要性を理解できる		〃
12	7月24日	〃	夏休みの過ごし方を考え、目標が立てられる		〃
13	8月21日	〃	夏休みの振り返り		〃
14	8月28日	〃	テスト		〃
15	9月4日	〃	半期振り返り・まとめ		〃
16	/				
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 □					

科目名 (英)	ビジネスマナー I (Business manner I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	野崎広治
学科・専攻	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	通年 曜日・時限
教員の略歴	不動産会社・金融コンサルタントを経て、独立。現在は、キャリア相談、採用コンサルティング、企業研修講師など様々な活動を行う。						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマナーと聞くと堅苦しく難しいイメージがあるが、マナーは社会人になった時だけでなく、学生生活における友人関係、研修、実習、アルバイトにおける接客など学生生活にも活用することができる。つまり、マナーは学生を含む全ての職業に共通する極めて重要な考え・スキルである。 ・本授業では、学校・ビジネスの場で活用できる知識とスキルを提供していく。また、知識とスキルは授業で学んだだけでは、習得(自分のものに)することができない。学んだことは日常生活で実践を兼ねた復習を必ず行うこと。 ・本授業は、ペア演習、グループ演習など議論や演習の場が多い。体調面、精神面、友人関係上の問題から配慮してほしいことがあれば講師に申し出ること。担任に確認の上対応する。 ・スマートフォンを活用する機会があるので充電をしっかりとしておくこと。 ・授業内容は学生の状況を見て変更することがある。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 職業人に求められるビジネスレベルのマナーの土台を作る ② 様々な人と円滑なコミュニケーションを取る手法を身につける ③ 自己管理の手法を身につけ、自ら成長を作り出すことができる 						
評価方法と基準	<p>授業運営に大きな変更が生じた場合は変更する場合がある。</p> <p><評価方法> ①試験:50%(50点)・・・100点を1/2にする ②授業態度・提出物50%(50点)</p> <p>①②合計で100点。成績は右記の通り(S100～90点 A89～80点 B79～70点 C69～60点 F59～0点)</p> <p>※試験の実施形式は学生の授業取り組み状況、レベルから形式を検討する。試験前の授業で通知する。</p> <p>※②について、授業中の睡眠・電子機器の無許可使用・隠れて使用・人を馬鹿にする行為・仲間外れは即0点とする</p> <p><追試>筆記試験 ※持ち込み不可</p>						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	講義・演習	授業の目的とゴールの理解 【基本動作】マナーの基礎、挨拶の理解とトレーニング	授業の学びを日常生活で実践する その他、状況に応じて設定
2	／	講義・演習	【基本動作】話の聞き方、表情、会話のトレーニング 【自己成長】習慣化の重要性	授業の学びを日常生活で実践する その他、状況に応じて設定
3	／	講義・演習	【基本動作】ものの受け渡し、指示受け、お礼、敬語、クッション言葉の理解とトレーニング	授業の学びを日常生活で実践する その他、状況に応じて設定
4	／	講義・演習	【コミュニケーション】伝えたいことわかりやすく伝える話法の理解とトレーニング	授業の学びを日常生活で実践する その他、状況に応じて設定
5	／	講義・演習	【基本動作】書類の書き方、郵便物の出し方、電話の作法の理解とトレーニング	授業の学びを日常生活で実践する その他、状況に応じて設定
6	／	講義・演習	【コミュニケーション】会話を広げ、深める質問スキルの理解とトレーニング	授業の学びを日常生活で実践する その他、状況に応じて設定
7	／	講義・演習	【基本動作】SNSの注意点、オンラインコミュニケーション、メールマナーの理解とトレーニング	授業の学びを日常生活で実践する その他、状況に応じて設定
8	／	講義・演習	【自己管理】メンタルヘルスの理解と様々な事柄に対応するための認知の理解とトレーニング	授業の学びを日常生活で実践する その他、状況に応じて設定
9	／	講義・演習		授業の学びを日常生活で実践する その他、状況に応じて設定
10	／	講義・演習	【チームコミュニケーション】演習を通じて、チームコミュニケーションのポイントの理解	授業の学びを日常生活で実践する その他、状況に応じて設定
11	／	講義・演習	【自己管理】QCDと経験学習・PDCAの理解とケーススタディからのトレーニング	授業の学びを日常生活で実践する その他、状況に応じて設定
12	／	講義・演習	【基本動作】訪問のマナー、報連相と基本動作のチェック&復習	授業の学びを日常生活で実践する その他、状況に応じて設定
13	／	講義・演習		授業の学びを日常生活で実践する その他、状況に応じて設定
14	／	試験	試験実施	試験準備
15	／	講義・演習	評価の仕組みを知る。前期の振り返りを行い、学びの言語化、後期へ向けた行動を明確にし成長につなげる	後期の学生生活の過ごし方を考える
準備学習 時間外学習			適宜提示する	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
講師作成資料を使用。その他参考資料は適宜紹介する				

科目名 (英)	エコロジー概論・動物関連法規 (Introduction to eEcology・Related Laws and Regulation)	必修 選択	必修・選択 必修・選択 等	年次	1	担当教員	高山 清次
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 曜日・時限 火曜日 1限
教員の略歴	1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、ブルークロス動物病院院長						
授業の学習内容	世界の環境問題 生物の減少 森林の減少 海洋汚染 地球温暖化 暮らしとエネルギー 生活とゴミ 食生活 動物園と水族館の環境 動物病院とペットショップ 牧場と山里						
到達目標	日常的に自然と環境に対して配慮できるようにする						
評価方法と基準	筆記試験:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	世界の環境問題に関して理解できる 野生生物の減少について理解できる	講義範囲を予習・復習する。
2	/	講義	森林の減少 熱帯林の減少について理解できる 地球温暖化の原因について理解できる	講義範囲を予習・復習する。
3	/	講義	海洋汚染 大切な海について 青い星がにぎり始めた原因を理解できる	講義範囲を予習・復習する。
4	/	講義	暮らしとエネルギー・食生活・ 生活とゴミについて理解できる	講義範囲を予習・復習する。
5	/	講義	動物園と水族館の環境ズーストック計画 牧場・山里の環境について理解できる	講義範囲を予習・復習する。
6	/	講義	すべては自分とつながっており、環境問題は他人 事ではないことを理解できる	講義範囲を予習・復習する。
7	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
8	/	講義	法について学ぶ意義を知る	講義範囲を予習・復習する。
9	/	講義	家畜衛生法関連・感染症法・ 狂犬病予防について理解する。	講義範囲を予習・復習する。
10	/	講義	愛護と管理の法について理解する。①	講義範囲を予習・復習する。
11	/	講義	愛護と管理の法について理解する。②	講義範囲を予習・復習する。
12	/	講義	外来法について理解する。	講義範囲を予習・復習する。
13	/	講義	鳥獣保護法について理解する。	講義範囲を予習・復習する。
14	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
15	/	講義	評価試験返却・解説・まとめ	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習		学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
「次世代のための環境教育 株式会社滋慶出版」				

科目名 (英)	アニマルヒストリー・アニマルベーシック (History of Animals and Human/Basic Animal Study)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	高山清次
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	前期
教員の略歴	1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、獣医師、ブルークロス動物病院院長						
授業の学習 内容	<アニマルベーシック> 動物に関する勉強をする場合の生物学的基礎知識を理解することを目的としている。 <アニマルヒストリー> 動物に関する歴史を学び、現代社会において、いかに動物との関係が必要であるかについて理解することを目的とする。						
到達目標	<アニマルベーシック> この科目を受講した学生が、基礎生物学の知識を身につけることにより、動物業界で活躍する人材になることを目標としている。 <アニマルヒストリー> この科目を受講した学生が、広い視野と柔軟な考え方をもち、「人と動物のより良い関係」を築くことができる業界人になることを目標としている。						
評価方法と基準	定期試験: 80% 授業内評価: 20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	光合成・食物連鎖、血液の役割・成分・生成、消毒・滅菌を説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
2	/	講義	ゾーノシス、濃度計算と希釈法、バイタルサイン、生体防御システムを説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
3	/	講義	エイズと免疫、アレルギーと免疫、ワクチンと免疫、外分泌と内分泌、代謝を説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
4	/	講義	五大栄養素、遺伝、繁殖、イヌとネコの交配を説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
5	/	講義	DNA・遺伝子・ゲノム、体細胞クローン動物、外来種、絶滅危惧種を説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
6	/	講義	温暖化、酸性雨、オゾンホール、エコロジー関連の国際条約を説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
7	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
8	/	講義	動物の進化とゲノムDNAの進化を説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
9	/	講義	イエイヌの歴史、人間と家畜の歴史、動物の仕事に携わる基としての倫理を説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
10	/	講義	ペットビジネスの種類を説明できる。環境を守る観察と観光について知識を深める。	講義範囲を予習・復習する。
11	/	講義	動物介在療法(AAT)と動物介在活動(AAA)、動物が人に与える効果について、セラピーに向く動物の育成、ペットロスを説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
12	/	講義	牧羊犬、警察犬、救助犬身体障害者補助犬法、盲導犬、介助犬、聴導犬を説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
13	/	講義	BSE問題、鳥インフルエンザ、日本の食料自給率、動物愛護問題を説明できる。	講義範囲を予習・復習する。
14	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
15	/	講義	評価試験返却・解説・まとめ	試験範囲を振り返り、理解を深める。
16	/			
準備学習 時間外学習			学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
「ECO業界で役立つ基礎生物 株式会社滋慶出版」「動物年表で知るアニマルヒストリー 株式会社滋慶出版」				

科目名 (英)	動物人間関係学 (Study of Human-Animal Bond)	必修 選択	必修・選択必修・選択等	年次	1	担当教員	横山昌美
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期・後期・通年・集中等
教員の略歴	動物系専門学校卒業後ドッグスクール勤務、動物病院勤務(臨床経験13年)						
授業の学習内容	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係をと心理学的及び社会学的側面から、その実態、課題等を含め理解する。						
到達目標	この科目を受講した学生が、広い視野と柔軟な考え方をもち、「人と動物のより良い関係」を築くことができる業界人になることを目標としている。						
評価方法と基準	定期試験:80% 授業態度と参加度:20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	人と動物とのふれあい活動(CAPP)を理解する	講義範囲を予習・復習する。
2	/	講義	人と動物とのふれあい活動(CAPP)を理解する	講義範囲を予習・復習する。
3	/	講義	動物介在活動(AAA)を理解する	講義範囲を予習・復習する。
4	/	講義	動物介在活動(AAA)を理解する	講義範囲を予習・復習する。
5	/	講義	動物介在療法(AAT)を理解する	講義範囲を予習・復習する。
6	/	講義	動物介在療法(AAT)を理解する	講義範囲を予習・復習する。
7	/	試験	動物介在教育(AAE)を理解する	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
8	/	講義	動物介在教育(AAE)を理解する	講義範囲を予習・復習する。
9	/	講義	動物介在教育(AAE)を理解する	講義範囲を予習・復習する。
10	/	講義	人と動物との絆(HAB)を理解する	講義範囲を予習・復習する。
11	/	講義	人と動物との絆(HAB)を理解する	講義範囲を予習・復習する。
12	/	講義	人と動物との絆(HAB)を理解する	講義範囲を予習・復習する。
13	/	講義	人と動物との絆(HAB)を理解する	講義範囲を予習・復習する。
14	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
15	/	講義	評価試験返却・解説・まとめ	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習			学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	コンパニオンドッグ I ()		必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	1	担当教員	三田
	学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義・演習・実 習等	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期・後期・通 年・集中等
教員の略歴	TCA卒業後 ドッグパフォーマンスの経験を経て、犬のブリーディング、トレーニングを行う							
授業の学習内 容	犬種、犬の歴史、犬とはどういう生き物かを学ぶ。							
到達目標	各犬種の特徴を知り、作出された用途を理解し犬を深く理解する。また、犬とはどのような生き物か、どう扱うかを学ぶ。							
評価方法と基準	定期試験100%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	学校犬紹介・ふれあい	
2	/	講義	犬種学・しつけの意義・遊びの重要性	
3	/	講義	犬種学・リーダーシップ	
4	/	講義	犬種学・犬の五感	
5	/	講義	犬種学・犬の本能1	
6	/	講義	犬種学・犬の本能2	
7	/	講義	犬種学・犬の攻撃性1	
8	/	講義	犬種学・犬の攻撃性2	
9	/	講義	犬種学・犬の攻撃性3	
10	/	講義	犬種学・問題解決ディスカッション	
11	/	講義	犬種学・問題解決ディスカッション	
12	/	講義	犬種学	
13	/	講義	犬種学	
14	/	試験		
15	/	振り返り	試験の答え合わせ・解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	コンパニオンドックⅡ ()	必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	1	担当教員	三田 舞
学科・コース	エコ・コミュニケーション科Ⅰ部	授業 形態	講義・演習・実 習等	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期・後期・通 年・集中等
教員の略歴	動物系専門学校卒業後、2003年～2009年ペットショップ勤務を経て2009年Animal Family 開業						
授業の学習内 容	一年生で学習したトレーニング技術を使い学校犬外の犬の扱い方を学ぶ。						
到達目標	モデル犬のトレーニングを通して、計画的にトレーニングを行っていく事を学ぶ。また、飼い主さんとのコミュニケーションの取り方を学ぶ。						
評価方法と基準	定期テスト80% 出席率20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	担当犬決め半年のトレーニングプラン作成	
2	/	演習	トレーニング	
3	/	演習	トレーニング	
4	/	演習	トレーニング	
5	/	演習	トレーニング	
6	/	演習	トレーニング	
7	/	演習	トレーニング	
8	/	演習	トレーニング	
9	/	演習	トレーニング	
10	/	演習	トレーニング	
11	/	演習	トレーニング	
12	/	演習	トレーニング	
13	/	演習	トレーニング	
14	/	試験		
15	/	振り返り	後期に向けてのトレーニングプラン作成	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	動物の健康管理 (Health Management of Animals)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	長嶺 幸介
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部						
教員の略歴	競走馬牧場、乗馬クラブ、総合ペットショップ、移動動物園、NPO法人生態科学研究所副理事						
授業の学習内容	身近な哺乳類について分類や品種、習性や体の特徴などを知ることで正常な状態なのかを知り適正飼育ができるように学ぶ またその動物の病気や飼育環境についても学び飼育に生かす						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 動物について学び適正飼育ができるようになる 動物たちについて理解しようとする、努力ができる 正常を知って異常に早く気づき、適切に報告や対応、検証ができるようになる 						
評価方法と基準	授業内評価: 40% 定期試験: 60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	飼養管理に対する責任について理解する	ノート整理とまとめ
2	/	〃	モルモットについて理解できる	〃
3	/	〃	モルモットの管理、デグーについて理解できる	〃
4	/	〃	デグーの管理、チンチラについて理解できる	〃
5	/	〃	チンチラの管理、ウサギについて理解できる	〃
6	/	〃	ウサギの管理、リス科動物について理解できる	〃
7	/	〃	プレーリードックとジリスについて理解できる	〃
8	/	〃	プレーリードックとジリスの管理について理解できる	〃
9	/	〃	シマリスについて理解し管理できる	〃
10	/	〃	ハムスターについて理解し管理できる	〃
11	/	〃	ハリネズミについて理解し管理できる	〃
12	/	〃	フェレットについて理解し管理できる	〃
13	/	〃	フクロモモンガについて理解し管理できる	〃
14	/	〃	テスト	〃
15	/	〃	まとめ	〃
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	栄養学 (Animal Nutrition)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	宮崎 みどり
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
教員の略歴	インターナショナル・アニマル・コーチでフラミンゴショー、ドックショーを担当 その後本校へ就任						
授業の学習内容	人間の食について知り考え、動物についても考えられるようにする そのために必要なことを学ぶ						
到達目標	・知識を学び自ら考えられるようにする ・「なぜそれをやるか」考える						
評価方法と基準	レポート:60% テスト:40%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	/	講義	食について知る	予習・復習	
2	/	〃	消化器系の働きを理解できる		〃
3	/	〃	〃		〃
4	/	〃	添加物について理解できる		〃
5	/	〃	栄養について理解できる		〃
6	/	〃	タンパク質について理解できる		〃
7	/	〃	〃		〃
8	/	〃	脂質について理解できる		〃
9	/	〃	糖質について理解できる		〃
10	/	〃	ビタミンについて理解できる		〃
11	/	〃	ミネラル・水について理解できる		〃
12	/	〃	エネルギーについて理解できる		〃
13	/	〃	予備日		〃
14	/	〃	テスト		〃
15	/	〃	まとめ・振り返り		〃
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 □					

科目名 (英)	動物の体のしくみ (Anatomy and Physiology of Animals)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	石田義成
	学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義、演 習	総時間 (単位)	30 2	開講区分
教員の略歴	農学博士、近畿大学農学部水産学科非常勤講師。環境省(財)環境科学総合研究所にて高濃度のCO2および農業が生物に及ぼす影響について研究。海外での環境保全・野生動物保護活動を行う(アルゼンチン国立ラプラタ大学にてラプラタ川の生物調査、カンボジアのメコン川およびボルネオのキナバタンガン川に生息するカワイルカの調査と保護活動)。						
授業の学習内容	動物園など動物飼育の仕事において、専門知識や技術をもつ人材を養成するだけでなく、根底にある動物達の解剖学的・生理学的要因を学ぶ。動物の体のしくみについての基礎的知識を習得し、これから実施していく動物園などでの業界研修のときに必要とする知識を習得することを目的とする。						
到達目標	受講者は、この授業を履修することによって、動物を仕事で扱う際に何か問題が起きたとき、その動物がなぜそのようになっているのか？ その問題の根底にある原因を考えられるようになることを目標とする。						
評価方法と基準	試験40%、出席60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	【骨格系1】 骨格の構造と機能を理解する。	動画視聴
2	/	講義	【骨格系2】 Caイオンと骨の関係を理解する。	動画視聴
3	/	講義	【骨格系3】 動物たちの行動と骨格のしくみの関係を理解する。	動画視聴
4	/	講義	【循環器系1】 心臓構造と血液循環について理解する。	動画視聴
5	/	講義	【循環器系2】 循環系の検査方法(心拍数・血圧・心電図)について理解する。	動画視聴
6	/	講義	【中枢神経系】 脳の役割と検査方法(脳波)について理解する。	動画視聴
7	/	講義	【視覚1】 眼の構造と機能について理解する。	動画視聴
8	/	講義	【視覚2】 色覚のしくみについて理解する。	動画視聴
9	/	講義	【視覚3】 動物たちの行動と色覚との関係を理解する。	動画視聴
10	/	講義	【視覚4】 眼以外の視覚(松果体・赤外線感知)	動画視聴
11	/	講義	【聴覚1】 動物の聴覚のしくみを理解する。	動画視聴
12	/	講義	【聴覚2】 動物のエコロケーションのしくみを理解する。	動画視聴
13	/	講義	【嗅覚】 動物の聴覚のしくみを理解する。	動画視聴
14	/	講義	【味覚】 動物の味覚のしくみを理解する。	動画視聴
15	/	講義	【総括授業】総括授業を行う。	レポート課題
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	公衆衛生 (Public Morality Health)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	高山清次
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
教員の略歴	1985年麻布大学大学院獣医学部博士課程修了、ブルークロス動物病院院長						
授業の学習内容	疾病や健康増進のしくみを学び、理解し明確な知識を持って、動物関係の仕事をする時はもちろんのこと、日常生活においても、この知識を役立てる。						
到達目標	この科目を受講した学生が、動物飼育の仕事に携わる時、公衆衛生の知識を持って、行動できることを目標とする。						
評価方法と基準	定期試験:80% 授業内評価:20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	公衆衛生の概要を把握する。	講義範囲を予習・復習する。
2	/	講義	動物のよい飼育環境を理解することができる。	講義範囲を予習・復習する。
3	/	講義	①環境衛生について理解することができる。	講義範囲を予習・復習する。
4	/	講義	②環境衛生について理解することができる。	講義範囲を予習・復習する。
5	/	講義	疾病の定義について理解することができる。	講義範囲を予習・復習する。
6	/	講義	防疫について、実践できる。	講義範囲を予習・復習する。
7	/	講義	①消毒のしくみについて理解することができる。	講義範囲を予習・復習する。
8	/	講義	②消毒のしくみについて理解することができる。	講義範囲を予習・復習する。
9	/	講義	①病原体について理解することができる。	講義範囲を予習・復習する。
10	/	講義	②病原体について理解することができる。	講義範囲を予習・復習する。
11	/	講義	ワクチンの仕組みについて述べるができる。	講義範囲を予習・復習する。
12	/	講義	①ズーノーシスを理解することができる。	講義範囲を予習・復習する。
13	/	講義	②ズーノーシスの予防を実践することができる。	講義範囲を予習・復習する。
14	/	試験	評価試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
15	/	講義	評価試験返却・解説・まとめ	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習			学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
学校の図書室にある公衆衛生関係の本やインターネットを利用する。				

科目名 (英)	ドルフィントレーニング (Dolphin Training)		必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	渋谷睦美
	学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	通年 曜日・時限
教員の略歴	1996年4月～2001年10月まであわしまマリンパークに所属し、飼育、ショーやプログラムなどのエデュケイト企画開発・実施、スタッフ教育を行う。2003年からは専門学校において講師を行い現在に至る。							
授業の学習内容	動物のトレーニングの背景にある原理と基本法則を学び、これを活用し実際にトレーニングを行う方法を身に付け、説明をする事が出来る。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋哺乳類の収集方法から初期トレーニングを理解、説明する事が出来る。 ・生物の行動の種類を理解、説明する事が出来る。 ・生物の行動の種類・学習の原理/基本法則を知り、説明する事が出来る。 ・古典的条件づけとオペラント条件づけの区別ができ、説明する事が出来る。・シェイピングを行う注意点を考慮し、トレーニング(人)を行う事ができ、説明する事が出来る。 							
評価方法と基準	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(0%) 3. レポート(0%) 4. 課題成果(0%) 5. 実地試験(0%) <p style="text-align: center;">以上の割合で後期評価とします。</p>							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	講義	オリエンテーション 授業目標と授業内容を理解する	
2	／	講義と演習	課題のトレーニング方法を文章で表現する事が出来る。	
3	／	講義	トレーニングの必要性について理解する事が出来る	
4	／	講義	トレーニングの歴史を理解する事が出来る	
5	／	講義	動物全般の基本的行動の定義と特性について理解、説明する事が出来る	
6	／	講義	馴化の定義と特性について理解、説明する事が出来る	
7	／	講義	オペラント条件付け① オペラント条件付けの定義を理解、説明する事が出来る	
8	／	講義	オペラント条件付け② 強化の種類を理解、説明する事が出来る	
9	／	講義	オペラント条件付け③ 罰の種類を理解、説明する事が出来る	
10	／	講義と演習	オペラント条件付けの理解度を小テストで確認する	
11	／	講義	小テストをもとに重要な点を再確認する	
12	／	講義	強化子と弱化学子について理解、説明する事が出来る	
13	／	講義	強化子の種類について理解、説明する事が出来る	
14	／	試験	前期授業内容の理解度を筆記試験で確認する	
15	／	講義	筆記試験結果をもとに重要な点を再確認する	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
社団法人 日本動物園水族館協会発行 新飼育ハンドブック 水族館編 第1・4・5集				

科目名 (英)	水生生物飼育環境管理 (Aquatic Animals and Plants Rearing)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	朝比奈理一
学科・専攻	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	前期
教員の略歴	アクアプロジェクトナッシュビルにて、生体やアクア商品の販売や外部施設のメンテナンス業務に従事しています。						
授業の学習内容	アクアルーム内に設置された水槽設備器具を使用して実際に生体を飼育しながら、生体管理方法・取り扱い方法など必要なスキルを身につける。何度も繰り返し作業を行う事で確実なものとする。状況に合わせ、判断・行動できるような能力を身につける。						
到達目標	生体の取り扱い方、接し方を学び、長期飼育できる能力を身につける。 飼育器具などの設備を適切に利用し、生体に適した環境を作り上げる事が出来る。						
評価方法と基準	試験 60% 出席率 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	飼育生体・飼育設備の説明	
2		演習	水生生物(淡水・海水)の世界について 飼育環境の条件について	
3		演習	水生生物(淡水)の飼育管理について	
4		演習	飼育環境と管理方法について	
5		演習	水質について(検査方法)	
6		演習	水槽管理の実践	
7		演習	* 作業前の準備、作業内容の組み立ての仕方について	
8		演習	* 作業前の準備、作業内容の組み立ての仕方について	
9		演習	* 生体の健康観察と、健康チェックの仕方について	
10		演習	* 生体の健康観察と、健康チェックの仕方について	
11		演習	* 水槽の飼育水の用意と交換方法について	
12		演習	* 水槽の飼育水の用意と交換方法について	
13		演習	* 水槽の飼育水の用意と交換方法について	
14		試験	筆記テスト	
15		演習	振り返り	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	魚類研究 (Fish Biology)	必修 選択	必修 選択	年次	3	担当教員	岡村淳市
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
教員の略歴	民営、公立、公営の3形態の水族館に勤務、展示・教育普及部門を経験する。学芸員有資格者						
授業の学習内容	水圏(海洋域・陸水域)にひろく分布する魚類の形態学、系統分類学、生態学を総論と各論で学び、間口の広い理解力を培う。 近年、従来の定説が覆される事例も多いので最新の調査研究結果も紹介しながら授業を進める。						
到達目標	①魚類生物学的諸研究の最新事情を把握する。 ②分類学 リンネ式学名の成り立ち、運用について理解を深める。 ③系統学 分類上の発展的な位置を確認する。 ④産業・生態的に重要と考えられる分類群は特に取り上げて知見を得る。						
評価方法と基準	記述試験60% 授業内評価40% (記述試験 :理解度、解説・文章力を評価) (授業内評価: 受講姿勢、発言および出席率を評価)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/9	講義	種名・学名・和名の分類を知る。	配布資料巻末の「まとめ」を各自復習
2	4/16	講義	命名規約、系統樹を知る。	〃
3	4/23	講義	基礎的構造や名称を知る。	〃
4	5/7	講義	体形の種類や体色を知る。	〃
5	5/14	講義	浸透圧調整や鰓の機能を知る。	〃
6	5/21	講義	側線や母川回帰について知る。	〃
7	5/28	講義	現生円口類と大量絶滅の関連を知る	〃
8	6/11	講義	主な板鰓類の特徴を知る。	〃
9	6/18	講義	現生レリック(遺存種)を知る。	〃
10	6/25	講義	原始的な条鰭類を知る。	〃
11	7/2	講義	現生硬骨魚類を知る。	〃
12	7/9	講義	〃	〃
13	7/16	講義	各巻末資料の「まとめ」を解説する。	
14	8/20	講義	記述テスト	
15	8/27	講義	試験結果の質疑・回答および解説	
準備学習 時間外学習			授業予定テーマの予習および各巻末まとめ問題の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 各回配布資料				

科目名 (英)	グルーミング演習 I		必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	1	担当教員	三浦 悦子
	学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義・演習・実 習等	総時間 (単位)	120 8	開講区分	通年
教員の略歴	動物系専門学校卒業後トリミングサロン勤務を経て独立							
授業の学習内 容	実際にモデル犬を使って、基本的な道具の使い方、犬の扱い方を学びながら、ベーシックを習得する							
到達目標	基本的なグルーミング方法を身につけ、犬種別のベーシックが出来る様になる							
評価方法と基準	1) 定期テスト80% 2) 平常点20%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	道具の使い方が理解できる	講義範囲の復習をする
2	/	講義と演習	演習の仕方が理解できる	演習範囲の復習をする
3	/	演習	グルーミングが実践できる	演習範囲の予習・復習をする
4	/	演習	グルーミングが実践できる	演習範囲の予習・復習をする
5	/	演習	グルーミングが実践できる	演習範囲の予習・復習をする
6	/	演習	グルーミングが実践できる	演習範囲の予習・復習をする
7	/	演習	グルーミングが実践できる	演習範囲の予習・復習をする
8	/	演習	グルーミングが実践できる	演習範囲の予習・復習をする
9	/	演習	グルーミングが実践できる	演習範囲の予習・復習をする
10	/	演習	グルーミングが実践できる	演習範囲の予習・復習をする
11	/	演習	グルーミングが実践できる	演習範囲の予習・復習をする
12	/	演習	グルーミングが実践できる	演習範囲の予習・復習をする
13	/	演習	グルーミングが実践できる	演習範囲の予習・復習をする
14	/	試験	演習範囲	演習範囲の予習・復習をする
15	/	講義	まとめ	演習範囲を振り返る
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				
グルーミングテキスト				

科目名 (英)	グルーミング演習Ⅱ ()	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	荒川
学科・専攻	エコ・コミュニケーション科Ⅰ部	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 8	開講区分	通年
教員の略歴	教員の略歴動物病院でトリマーとして勤務。その後、ペットショップで店長として勤務。現在は、フリー。						
授業の学習内容	実際にモデル犬を使って、グルーミングの基礎を学ぶ。犬の扱いに慣れ、安全な保定の仕方を学ぶ。またコントロール出来ることで、安全なグルーミング、トリミングが可能になることを学ぶ。前期後半はステップアップとして、時間がかかってしまいがちな足回りの作業の効率化を学ぶ。そして技術の第一歩として、ハサミを使ってカットすることの抵抗を無くす。						
到達目標	グルーミングの基本を安全に行えるよう、まず犬の扱いに慣れる。安全な保定を覚える。カットに置いては、バリカンの安全な扱いを習得する。後半は項目ごとに時間配分をして、時間短縮を目指す。また足回りのカットにチャレンジしてハサミに慣れる。						
評価方法と基準	テスト80%、平常点20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	グルーミングの道具と犬の扱いに慣れる	
2	/	実習	グルーミングの道具と犬の扱いに慣れる	
3	/	実習	グルーミングの道具と犬の扱いに慣れる	
4	/	実習	グルーミングの道具と犬の扱いに慣れる	
5	/	実習	グルーミングの道具と犬の扱いに慣れる	
6	/	実習	グルーミングの道具と犬の扱い方を学ぶ	
7	/	実習	グルーミングの道具と犬の扱い方を学ぶ	
8	/	実習	グルーミングの道具と犬の扱い方を学ぶ	
9	/	実習	グルーミングの道具と犬の扱い方を学ぶ	
10	/	実習	時間配分ををして時間短縮を目指す	
11	/	実習	時間配分ををして時間短縮を目指す	
12	/	実習	時間配分ををして時間短縮を目指す	
13	/	実習	時間配分ををして時間短縮を目指す	
14	/	実習	試験	
15	/	実習	試験・振り返り	
準備学習 時間外学習			時間外学習ネットなどで、グルーミング動画を見て犬の扱い(扱いの難しい犬など)をどう行っているのか、声掛けなども学んでおくこと。同様にトリミング動画から、ハサミ・バリカンの入れ方を学んでおくこと。来年に向けて、動画や画像から一般的なカットスタイルを見て、イメージできるスタイルを増やすこと。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	ショップ演習 I (Shop Exercise)	必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	1	担当教員	三田 舞
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義・演習・実 習等	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 土曜日 3限
教員の略歴	動物系専門学校卒業後、2003年～2009年ペットショップ勤務を経て2009年Animal Family 開業						
授業の学習内 容	5世帯に1世帯が犬をペットとして飼っている日本の現状において、本専攻学生が卒業後に果たす役割は業界のみならず、社会全体にとっても大きくなっている。そのスキルを最大限に生かすためには、飼い主の持つ「マインド」を理解し、専門知識と経験を飼い主や顧客に効率的・効果的に伝える方法を習得することが有効である。その力量を持つ業界を担う人材の育成のため、飼い主に伝える知識の習得と飼い主とのコミュニケーションスキル向上を目的とする。						
到達目標	専門家としてのスキルを最大限いかすべく、以下の能力の形成を目標とする。 1) 飼い主が犬と暮らす上で、疑問や問題に回答出来る知識力 2) 犬についての知識や経験を正確に伝えるコミュニケーション能力 3) 飼い主と犬を客観的に判断するための観察力 4) 自己のトレーニング能力を個別の案件に対応させる想像力						
評価方法と基準	定期試験：80% 授業態度と参加度：20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	半期の授業内容を説明し、当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解することができる。	授業範囲を予習・復習する。
2	/	演習	この講義の持つ役割と飼主の心理と愛犬との関係の見方、飼主への対応方法の基礎を学習する。	授業範囲を予習・復習する。
3	/	演習	人間社会とイヌとの関わりを歴史的に振り返りながら学習し「犬は家族の一員」という近年いわれるようになった背景とその現状を理解する	授業範囲を予習・復習する。
4	/	演習	人間社会とイヌとの関わりを歴史的に振り返りながら学習し「犬は家族の一員」という近年いわれるようになった背景とその現状を理解する	授業範囲を予習・復習する。
5	/	演習	それぞれの犬種の持つ特徴を理解し、飼い主が持つイメージとのギャップを理解する。	授業範囲を予習・復習する。
6	/	演習	飼い主が知っておいた方がよいレベルの犬の体と能力を確認し、基本的な質問等に答えられるようにする。	授業範囲を予習・復習する。
7	/	演習	飼い主が知っておいた方がよいレベルの犬の体と能力を確認し、基本的な質問等に答えられるようにする。	授業範囲を予習・復習する。
8	/	演習	犬の本能と習性を学び、「飼い主が犬と暮らす」ために必要な知識の理解と飼い主への適切なアドバイス方法を学習する。	授業範囲を予習・復習する。
9	/	演習	犬の本能と習性を学び、「飼い主が犬と暮らす」ために必要な知識の理解と飼い主への適切なアドバイス方法を学習する。	授業範囲を予習・復習する。
10	/	演習	犬の日常の健康状態のチェック方法や怪我の応急処置、初期の対応方法を理解し、飼い主への適切なアドバイスが行えるようになる	授業範囲を予習・復習する。
11	/	演習	犬の日常の健康状態のチェック方法や怪我の応急処置、初期の対応方法を理解し、飼い主への適切なアドバイスが行えるようになる	授業範囲を予習・復習する。
12	/	演習	現在の保護活動についての現状を知ることができる	授業範囲を予習・復習する。
13	/	演習	現在の保護活動についての現状を知ることができる	授業範囲を予習・復習する。
14	/	試験	筆記試験	試験範囲を予習・復習する。
15	/	演習	テスト結果の振り返りを行うことでこの授業の理解をさらに深める	授業範囲を予習・復習する。
準備学習 時間外学習		事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
必要に応じて随時参考資料等を使用				

科目名 (英)	動物行動学 I	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	大竹静枝
	(Science of Animal Behaviour I)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	前期
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部						
教員の略歴	野生ニホンザル,新世界ザルの調査に従事。ロスアンデス大学、宮城教育大学、専門学校での講師歴は34年に及ぶ。						
授業の学習内容	様々な動物で行動観察の訓練を繰り返し、観察力をきたえる。それによって、動物の構造と機能を読み取る能力を身につける。						
到達目標	1) 動物観察の基本と、進化的思考を身につける。 2) 専門用語を自在に扱えるようにする。						
評価方法と基準	1) レポート、テスト 40% 2) 授業態度 30% 3) 出席数 30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月12日	講義	コアラとホエザルの収斂	1分間で自己紹介!
2	4月19日	講義	究極の省エネ戦略:ナマケモノ	前回の復習
3	4月26日	自習課題	ダーウィンの見たガラパゴス:陸編	自己紹介スピーチ原稿の作成
4	5月10日	動物園観察会	動物観察を楽しむ方法	来年の対象動物の選択
5	5月17日	動物園観察会	ダーウィンの見たガラパゴス:海編	課題完成
6	5月24日	講義	自然選択説とガの工業黒化	進化論の理解
7	5月31日	講義	動物行動学の手法: まず数を数えろ!	映像レポートの完成
8	6月14日	講義	南米のチンパンジーの道具使用	映像レポートの完成
9	6月21日	講義	バイオロギングって何?最新の調査法	映像レポートの完成
10	6月28日	講義	哺乳類の分類:哺乳類展の見どころ	前回の復習
11	7月5日	講義	哺乳類の毛の構造と役割	前回の復習
12	7月12日	講義	毛ものが適応放散を可能にした	前回の復習
13	7月19日	講義	恐竜は生きている:鳥形恐竜	前回の復習
14	9月6日	テスト	前期の振り返り	前期総復習
15	9月13日	講義	テストのまとめと復習	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ 映像機器、ボード、資料コピーを使用				

科目名 (英)	基礎訓練学 I ()	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	南條絵美
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	240 16	開講区分	通年
教員の略歴	ドッグトレーナー(ワンワン・トレーニングスクール)						
授業の学習内容	クレートトレーニング(犬舎内でのマナーを教える) 服従心の強化(犬との遊び) 集中力の強化(アイコンタクト)						
到達目標	犬との遊びを入れながら飽きさせない様に自分で組み立てる訓練ができるようにする						
評価方法と基準	授業態度 60% 実技試験 40%をベースに理解度、工夫があるか、同じ失敗がないかなど総合的に評価する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	注意事項の確認、犬との遊び	
2	/	演習	歩き方の姿勢、担当犬を決める	
3	/	演習	服従心の強化(犬との遊び)	
4	/	演習	集中力の強化(アイコンタクト)	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
5	/	演習	対面停座、脚側停座(定位置を覚える)	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
6	/	演習	脚側停座からのアイコンタクト	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
7	/	演習	服従心の強化(待て)	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
8	/	演習	伏臥	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
9	/	演習	脚側行進(直進)	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
10	/	演習	脚側停座、アイコンタクト、脚側行進	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
11	/	演習	脚側行進(Uターン)	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
12	/	演習	脚側停座、アイコンタクト、脚側行進	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
13	/	演習	クレートトレーニング	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
14	/	演習	伏臥 アイコンタクト	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
15	/	演習	今までのまとめ 復習	
16	/	試験		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	ドッグトレーニング I ()		必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	2	担当教員	三田舞
	学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義・演習・実 習等	総時間 (単位)	120 8	開講区分	前期・後期・通 年・集中等
教員の略歴	動物系専門学校卒業後 ドッグパフォーマンスの経験を経て、犬のブリーディング、トレーニングを行う							
授業の学習内 容	一年生で学習したトレーニング技術を使い学校犬外の犬の扱い方を学ぶ。							
到達目標	モデル犬のトレーニングを通して、計画的にトレーニングを行っていく事を学ぶ。また、飼い主さんとのコミュニケーションの取り方を学ぶ。							
評価方法と基準	定期テスト80% 出席率20%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	担当犬決め半年のトレーニングプラン作成	
2	/	演習	トレーニング	
3	/	演習	トレーニング	
4	/	演習	トレーニング	
5	/	演習	トレーニング	
6	/	演習	トレーニング	
7	/	演習	トレーニング	
8	/	演習	トレーニング	
9	/	演習	トレーニング	
10	/	演習	トレーニング	
11	/	演習	トレーニング	
12	/	演習	トレーニング	
13	/	演習	トレーニング	
14	/	試験		
15	/	振り返り	後期に向けてのトレーニングプラン作成	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	動物飼育管理Ⅰ (Animal BreedingⅠ)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	津嶋 一樹
学科・コース	エコ・コミュニケーション科Ⅰ部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8	開講区分	通年
教員の略歴	動物系専門学校卒業後「(株)東北サファリパーク」入社 2021年8月に本校講師就任						
授業の学習内容	学校にて飼育している動物の管理や観察の方法を学び、飼育の知識・経験を養う						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校動物の基本的な管理、飼育ができる ・動物の健康状態を判断し、状況に合わせた対応ができる ・時間管理やコミュニケーション等を自ずと実践できる 						
評価方法と基準	授業内評価:40% レポート:40% 小テスト:20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	学校動物の種類を理解できる	復習・レポート
2	/	〃	動物飼育の注意点を理解できる	〃
3	/	〃	飼育の心構えを理解できる	〃
4	/	演習	飼育の流れを把握できる	〃
5	/	〃	協力して飼育できる	〃
6	/	〃	コミュニケーション能力を発揮できる	〃
7	/	〃	時間管理ができる	〃
8	/	〃	動物観察ができる	〃
9	/	〃	周囲に気を配ることができる	〃
10	/	〃	計画を立てて飼育ができる	〃
11	/	〃	優先順位を理解できる	〃
12	/	〃	積極的にやるべきことに取り組める	〃
13	/	〃	小テスト	〃
14	/	〃	まとめ	〃
15	/	〃	臨機応変な対応ができる	〃
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	動物園研究 I (Zoological Garden Study I)	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	阿部敏計
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日・時限	通年
教員の略歴	東北大学農学部修士修了後、八木山動物公園勤務、2017年副園長で退職、2023年より河北町児童動物園学芸員採用						
授業の学習 内容	①動物園で飼育員として働くにあたり、動物園とはどのような施設なのかを知っておく必要があるため、この授業を行う。②「公衆衛生」の法令と「愛玩動物飼養管理士」受験対策と関係する。③動物園についての概論を学びながら、動物園の役割や動物園に関する法令等について身につける ①～③をふまえ、新・飼育ハンドブック動物園編3を教科書にして授業を進める。						
到達目標	動物園の歴史、役割や動物園に関わる法令等と、日本動物園水族館協会について理解する。						
評価方法と	1) 定期試験60% 2) 授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	動物園とはどんな施設かを説明できる	講義範囲の復習
2	/	講義	動物園の役割を説明できる	講義範囲の復習
3	/	講義	展示と保全を説明できる	講義範囲の復習
4	/	講義	調査研究と教育活動を説明できる	講義範囲の復習
5	/	講義	日本動物園水族館協会について知る I	講義範囲の復習
6	/	講義	日本動物園水族館協会について知る II	講義範囲の復習
7	/	講義	博物館法、文化財保護法を覚える	講義範囲の復習
8	/	講義	動物愛護管理法を覚える	講義範囲の復習
9	/	講義	種の保存法と外来生物法を覚える	講義範囲の復習
10	/	講義	ワシントン条約と生物多様性条約等を覚える	講義範囲の復習
11	/	講義	動物福祉と分類を説明できる	講義範囲の復習
12	/	施設見学	仙台市八木山動物公園見学	見学レポート
13	/	講義	復習	総復習
14	/	試験	試験	試験範囲を勉強し、試験後見直す
15	/	解説	試験の解説	間違った答えの正答を覚える
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ 新・飼育ハンドブック動物園編3				

科目名 (英)	畜産飼養 (Stock breeding)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	阿部敏計
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	前期
教員の略歴	東北大学農学部修士修了後、八木山動物公園勤務、2017年副園長で退職、2023年より河北町児童動物園学芸員採用						
授業の学習 内容	①酪農ヘルパー、牧場と動物園で飼育員として働くにあたり、畜産飼養について知っておく必要がある ので、この授業を行う。②「公衆衛生」「動物園研究Ⅰ」「馬学」と関係する。③畜産飼養につい て学びながら、家畜の飼育管理方法について身につける。①～③をふまえ、畜産と家畜飼養学 を教科書にして授業を進める。また、二本松南ヶ丘牧場生産部で働く卒業生に特別講演をして もらい、実際の仕事の流れなども学ぶ。						
到達目標	家畜のウシ、ブタ、ヤギ、ヒツジ、ニワトリの飼養について理解する。						
評価方法と	1) 定期試験60% 2) 授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	ウシ、ヤギ、ヒツジの体のしくみと生理を覚える	講義範囲の復習
2	/	講義	ブタとニワトリ他の体のしくみと生理を覚える	講義範囲の復習
3	/	講義	ニワトリの飼養(飼育管理)を覚える①	講義範囲の復習
4	/	講義	ニワトリの飼養(採卵・病気)を覚える②	講義範囲の復習
5	/	講義	ブタの飼養(肥育)を覚える①	講義範囲の復習
6	/	講義	ブタの飼養(繁殖・病気)を覚える②	講義範囲の復習
7	/	講義	ヤギ・ヒツジの飼養(飼育管理)を覚える①	講義範囲の復習
8	/	講義	ヤギ・ヒツジの飼養(繁殖・病気)を覚える②	講義範囲の復習
9	/	試験	中間試験	これまでの授業について試験
10	/	講義	ウシの飼養(飼育管理)を覚える①	講義範囲の復習
11	/	講義	ウシの飼養(繁殖・病気)を覚える②	講義範囲の復習
12	/	講義	ウシの飼養(泌乳・肥育)を覚える③	講義範囲の復習
13	/	講義	復習	総復習
14	/	試験	試験	試験範囲を勉強し、試験後見直す
15	/	解説	試験の解説	間違った答えの正答を覚える
準備学習 時間外学習			5月14日の5限目に特別講演(二本松南ヶ丘牧場勤務職員)予定	
【使用教科書・教材・参考書】 □ 畜産：農文協、畜産飼養学：朝倉書店				

科目名 (英)	クラフトワーク I	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	渡辺尋志
	(craft work I)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	通年
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部						
教員の略歴	日本美術家連盟会員、福島県在京美術家協会会員、新制作協会会員						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物に関わる人間にとって大切なことは観察することそして考えること。 ・何かを形にするためには対象物を観察し何故この形になったのかを考えること。 ・絵を描き、粘土や針金で形を作り出す時自分自身の制作物を客観的にとらえ間違いや過不足箇所を訂正できる。 ・興味があるものだけでなくすべての事柄に対して考えることの重要性を理解して欲しい。 ・また、そこに付随して生態や現在の問題点、それに対しての自分なりの解決策まで考察できる。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の名称を聞いただけでおおよその形を描くことができます。 ・鉛筆や色鉛筆など身近な画材の使用法を身につける。 ・ドライバー、ペンチ、鋸など基本の道具の使い方を覚える。 ・モノづくりをすることで中途半端な仕事や作業をせず良い仕上がりに向けて動くことができる。 ・ワークショップの課題として参加者にアドバイスできる。 						
評価方法と基準	1) 授業態度40% 2) 作品提出40% 3) 作品評価20% ※授業に向き合う姿勢が素晴らしいと判断し、すべての作品を期限までに提出したものは作品評価が低い場合でもA評価とする。						

授業計画・内容				
回数 +11:2 7	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月11日	講義	授業の流れとモノ作りについての説明を理解することが出来る	自己紹介イラスト制作
2	4月18日	実習	動物のイラストを描くことが出来る (模写が出来る)	描く動物の生態学習
3	4月25日	実習	動物のイラストを描くことが出来る (色鉛筆による着色が出来る)	色鉛筆着色方法の指導
4	5月9日	実習	動物のイラストを描くことが出来る	動物の身体の形の考え方
5	5月16日	実習	アニマルメモキャッチャー制作においてペンチで針金を切る、曲げることが出来る	動物の形を単純に捉えるための練習をする
6	5月23日	実習	アニマルメモキャッチャー制作においてペンチで針金を切る、曲げることが出来る	ワークショップ課題としての技術獲得のため道具の使い方を練習する
7	5月30日	実習	動物イラスト「ありえない世界」	動物の特徴と生態をどう生かしてイラストにするかを考えておく
8	6月20日	実習	動物イラスト「ありえない世界」	課題作成前に物語を作り文章として表現してみる
9	6月27日	実習	動物イラスト「ありえない世界」	
10	7月4日	実習	羊毛フェルトの動物制作	動物の形の考え方
11	7月11日	実習	羊毛フェルトの動物制作	ワークショップ課題としての技術獲得のため道具の使い方を練習する
12	7月18日	実習	羊毛フェルトの動物制作	
13	8月22日	実習	動物の絵本制作	動物表現の拡充を図る
14	8月29日	実習	動物の絵本制作	コミュニケーション方法として獲得
15	9月5日	実習	動物の絵本制作	ワークショップ課題としての技術獲得のため道具の使い方を練習する
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	海洋哺乳類	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	藤田智子
	(Marine Mammal Science)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	前期
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部						
教員の略歴	畜産学科卒業後、千葉県鴨川シーワールド入社。海獣飼育員として勤務。						
授業の学習内容	海洋哺乳類の生理・生態について学ぶ						
到達目標	水族館職員として飼育動物の健康管理を行えるようになる。						
評価方法と基準	定期試験 60% 出席率、その他 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月11日	講義	ガイダンス	テキスト・ノート確認
2	4月18日	講義	海牛の種類、食性	テキスト・ノート確認
3	4月25日	講義	海牛の骨格、歯	テキスト・ノート確認
4	5月9日	講義	海牛の消化機能	テキスト・ノート確認
5	5月16日	講義	鯨の種類、分類	テキスト・ノート確認
6	5月23日	講義	鯨の食性	テキスト・ノート確認
7	5月30日	講義	鯨の体温調節	テキスト・ノート確認
8	6月13日	講義	鯨の消化管	テキスト・ノート確認
9	6月20日	講義	鯨の呼吸器	テキスト・ノート確認
10	6月27日	講義	鯨の骨格	テキスト・ノート確認
11	7月4日	講義	鯨の耳、超能力	テキスト・ノート確認
12	7月11日	講義	鯨の目	テキスト・ノート確認
13	7月18日	講義	鯨の種類別特徴	
14	8月22日	講義	筆記試験	
15	8月29日	講義	振り返り	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 鯨類海産哺乳類学				

科目名 (英)	水族館飼育演習 I (Practice of Aquatic Animal Management)		必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	1	担当教員	鈴木 達也
	学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義・演習・実 習等	総時間 (単位)	60 4	開講区分	通年
教員の略歴	動物系専門学校卒業後、ペット用品、魚病薬を製造販売しているメーカーにて営業として勤務							
授業の学習内容	校内外の動物施設で実際の飼育管理や施設管理について学ぶ。 見学実習や、業界で働かれている方の特別講義を通して”今”の水族館に関して理解を深める。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各実習地で飼育、展示に関して見て学び、物事の”理由”を添えてレポートでまとめることができる ・実習前講義で学んだことをしっかり予習し、当日実践することができる(ポイントを抑え、イルカにサインを出す) ・実習、特別講義を通して自分の目指す水族館を探す 							
評価方法と基準	実習態度50%、レポート50%							

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	6月26日	講義	新江ノ島水族館にてレクチャー・見学実習		
2	6月26日	講義	新江ノ島水族館にてレクチャー・見学実習		
3	6月26日	講義	新江ノ島水族館にてレクチャー・見学実習		
4	6月26日	講義	新江ノ島水族館にてレクチャー・見学実習		
5	6月26日	講義	新江ノ島水族館にてレクチャー・見学実習		
6	6月27日	講義	ドルフィンファンタジーにて体験実習		
7	6月27日	講義	ドルフィンファンタジーにて体験実習		
8	6月27日	講義	ドルフィンファンタジーにて体験実習		
9	6月27日	講義	ドルフィンファンタジーにて体験実習		
10	6月27日	講義	ドルフィンファンタジーにて体験実習		
11	6月28日	講義	ドルフィンファンタジーにて体験実習		
12	6月28日	講義	ドルフィンファンタジーにて体験実習		
13	6月28日	講義	ドルフィンファンタジーにて体験実習		
14	6月28日	講義	ドルフィンファンタジーにて体験実習		
15	6月28日	講義	ドルフィンファンタジーにて体験実習		
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 □					

科目名 (英)	鯨類基礎飼育管理 (Basics of whale breeding management)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	渋谷睦美
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義・演 習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	通年
教員の略歴	1996年4月～2001年10月まであわしまマリンパークに所属し、飼育、ショーやプログラムなどのエデュケイト企画開発・実施、スタッフ教育を行う。2003年からは専門学校において講師を行い現在に至る。						
授業の学習内容	ドルフィントレーナーに必要な水族館と鯨類全般についての基礎知識を学び、実践に向けた準備を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・水族館の役割が説明できる。 ・生物の収集・輸送について説明ができる。 ・施設～水槽～について比較し、違いについて説明ができる。 ・餌料の選択基準から取り扱う上での注意点について説明ができる。 						
評価方法と基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(0%) 3. レポート(0%) 4. 課題成果(0%) 5. 実地試験(0%) 以上の割合で前期評価とします。 						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	/	講義	オリエンテーション 授業目標と授業内容を理解する		
2	/	講義	日本の水族館の調査・分析をする		
3	/	講義	調査・分析結果についての個別発表・情報共有・水族館の可能性について討議する		
4	/	講義	水族館の定義、日本動物園水族館協会について修得する		
5	/	講義	水族館の社会的役割の把握し、調査結果との関係づけと類別する		
6	/	講義	鯨類の収集方法について修得する		
7	/	講義	鯨類の収集方法の現状把握・今後の収集方法の討議する		
8	/	講義	鯨類の輸送方法についての知識を修得する		
9	/	講義	鯨類飼育のために必要な施設を理解する		
10	/	講義	陸上プールでの鯨類飼育について理解する		
11	/	講義	海面利用プールでの鯨類飼育について理解する		
12	/	講義	餌料の選定基準についての知識を修得する		
13	/	講義	餌料としての冷凍魚の活用についての知識を修得する		
14	/	試験	前期授業内容の理解度を筆記試験で確認する		
15	/	講義	筆記試験結果をもとに重要な点を再確認する		
準備学習 時間外学習			校外研修では授業で学んだことを確認してより深い知識としてください。		
【使用教科書・教材・参考書】 □					
社団法人 日本動物園水族館協会発行 新飼育ハンドブック 水族館編 第1・2・3集					

科目名 (英)	潜水士対策講座 (Diver)	必修 選択	必修 選択	年次	1、2	担当教員	小野寺 紘也
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
教員の略歴	ダイビングショップ勤務、PADIコースディレクター、潜水士資格所持						
授業の学習内容	潜水士の教科書、過去問を中心に分析して生徒全員にわかりやすい授業を心がける。過去の試験問題を参照して抜粋して効率よく学べるようにプリントを配布する等の工夫も取り入れる。						
到達目標	潜水士の国家試験に合格できるよう知識を身につける。						
評価方法と基準	授業内評価100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	潜水士問題集での講義	潜水業務について
2		講義	潜水士問題集での講義	潜水業務について
3		講義	潜水士問題集での講義	送気、潜降及び浮上について
4		講義	潜水士問題集での講義	送気、潜降及び浮上について
5		講義	潜水士問題集での講義	高気圧障害について
6		講義	潜水士問題集での講義	高気圧障害について
7		講義	潜水士問題集での講義	関係法令について
8		講義	潜水士問題集での講義	関係法令について
9		講義	過去問での復習	潜水業務について
10		講義	過去問での復習	送気、潜降及び浮上について
11		講義	過去問での復習	高気圧障害について
12		講義	過去問での復習	関係法令について
13		講義	過去問での復習	全体を通しての見直し
14		講義	過去問での復習	全体を通しての見直し
15		講義	過去問での復習	全体を通しての見直し
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
潜水士教科書、問題集、過去問プリント				

科目名 (英)	スイムトレーニング I (Swimming Training I)		必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	小野
学科・コース	エコ・コミュニケーション科		授業 形態	講義・演習・実 習等	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前・後期・通 年・集中等
教員の略歴	株式会社プラゼール【潜水土木業/レジャーダイビング業/海外留学斡旋業/船舶免許講習業など】							
授業の学習内容	ダイビングライセンスを取得するために、必要な実際の技術について学びます。 又、水中での自己の安全管理ができるよう知識と技術を学びます。 取得するだけでなく、実際に水中活動ができるよう知識と技術を身に付けていきましょう。 この資格は水族館関連就職に必須になっている場合が多く、就職後も水槽清掃などで実際に使っていく資格となってます。							
到達目標	PADIオープンウォーターダイバーライセンスの資格取得を目標とします。							
評価方法と基準	筆記試験の点数と、実技試験で評価する。 筆記試験の評価30% 実技試験評価50% 授業態度や取り組みでの評価20% 上記の合計で評価する。							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ライセンス取得までの流れと 学習内容が把握できる	
2		講義・演習	-学科1章-水中での体への影響を説明 できる	事前学習 ナレッジレビュー1.2
3		講義・演習	-学科2章-ダイビング器材の取扱いがで きる	
4		講義・演習	-学科3章-様々なトラブルに対処できる	事前学習 ナレッジレビュー3.4
5		講義・演習	-学科4章-ダイビングプランを作成できる	
6		講義・演習	-学科5章-水中での安全管理ができる	事前学習 ナレッジレビュー5
7		講義・演習	学科試験	
8		講義・演習	限定水域(昇降プール)講習 ・器材の使い方を実践できる	
9		講義・演習	限定水域(昇降プール)講習 ・水面でのダイビングスキルを実践でき	
10		講義・演習	限定水域(昇降プール)講習 ・水中でのダイビングスキルを実践でき	
11		講義・演習	海洋(大水槽)講習 ・習得したスキルを大水槽で実践できる	
12		講義・演習	海洋講習 ・習得したスキルを海洋で実践できる	
13		講義・演習	海洋講習 ・習得したスキルを海洋で実践できる	
14	"	講義・演習	海洋講習 ・習得したスキルを海洋で実践できる	
15	"	講義・演習	海洋講習 ・習得したスキルを海洋で実践する試験	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 オープンウォーターダイバーテキスト・DVD				

科目名 (英)	水族館研究 I (Aquarium Study I)		必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	藤田智子
	学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日・時限	通年
教員の略歴	畜産学科卒業後、千葉県鴨川シーワールド入社。海獣飼育員として勤務。							
授業の学習内容	水族館の目的、社会的機能を考えてみる。							
到達目標	動物福祉と野生生物保全に配慮した運営に貢献できるようになる。							
評価方法と基準	定期試験 50% 出席率、その他 50%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	ガイダンス	テキスト・ノート確認
2		講義	動物園・水族館とは	テキスト・ノート確認
3		講義	水族館の歴史	テキスト・ノート確認
4		講義	水質管理	テキスト・ノート確認
5		講義	水質管理	テキスト・ノート確認
6		講義	水族館の展示形態	テキスト・ノート確認
7		講義	日本動物園水族館協会	テキスト・ノート確認
8		講義	動物園・水族館に関する法令(国内)	テキスト・ノート確認
9		講義	動物園・水族館に関する法令(国内)	テキスト・ノート確認
10		講義	動物園・水族館に関する法令(国際)	テキスト・ノート確認
11		講義	動物園、水族館に関係する国際団体	テキスト・ノート確認
12		講義	ハンドブック3	テキスト・ノート確認
13		講義	まとめ	
14		講義	筆記試験	
15		講義	振り返り	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 新・飼育ハンドブック1～5				

科目名 (英)	水生生物飼育生体管理 (Aquatic Animals and Plants Rearing)	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	朝比奈理一
学科・専攻	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	通年
教員の略歴	アクアプロジェクトナッシュビルにて、生体やアクア商品の販売や外部施設のメンテナンス業務に従事しています。						
授業の学習内容	アクアルーム内に設置された水槽設備器具を使用して実際に生体を飼育しながら、生体管理方法・取り扱い方法など必要なスキルを身につける。何度も繰り返し作業を行う事で確実なものとする。状況に合わせて、判断・行動できるような能力を身につける。						
到達目標	生体の取り扱い方、接し方を学び、長期飼育できる能力を身につける。 飼育器具などの設備の仕組みを理解し、適切に運用できるようになる。 生体の飼育環境を一から作り上げ、それを維持する能力を身につける。						
評価方法と基準	試験 60% 出席率 40% ・授業に取り組む姿勢、作業時の注意事項への取り組み、生体への取り組み方、接し方 含む						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	飼育生体・飼育設備の説明	
2		演習	水生生物(淡水・海水)の世界について 飼育環境の条件について	
3		演習	水槽飼育器具用品についての説明	
4		演習	水槽管理方法と実践 * 設備の使用方法、水槽内の清掃・点検が出来る	
5		演習	濾過の仕組みと濾過装置についての説明	
6		演習	濾過装置の扱い方 * 取り付け方法・仕組みが分かる	
7		演習	濾過装置の扱い方 * 濾過材の洗浄・保管が出来る	
8		演習	水槽管理の実践	
9		演習	* 作業前の準備、作業内容の組み立てが出来る	
10		演習	* 生体の健康を観察し、状態の判断が出来る	
11		演習	* 水質検査を行い、水の状態を見て状況の善し悪しの判断が出来る、また改善策も考え実行できる	
12		演習	水質検査薬の使用方法と実践	
13		演習	水生植物(水草)について	
14		試験	筆記テスト	
15		演習	振り返り	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	トレーニング基礎 (Basic Aquatic Animal Training)	必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	1	担当教員	三田舞
	学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義・演習・実 習等	総時間 (単位)	30 2	開講区分 前・後・通 年・集中等
教員の略歴	動物系専門学校卒業後 ドッグパフォーマンスの経験を経て、犬のブリーディング、トレーニングを行う						
授業の学習内 容	犬のトレーニングを通して、動物のトレーニング方法を学び、実践する。						
到達目標	基本的な犬の扱い方を学び、トレーニング技術を身につける。動物を扱う意識を高める。						
評価方法と基準	定期試験80% 出席率20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	犬慣れ、トレーニング方針の説明	
2	/	演習	トレーニング	
3	/	演習	トレーニング	
4	/	演習	トレーニング	
5	/	演習	トレーニング	
6	/	演習	トレーニング	
7	/	演習	トレーニング	
8	/	演習	トレーニング	
9	/	演習	トレーニング	
10	/	演習	トレーニング	
11	/	演習	トレーニング・試験練習(パフォーマンス)	
12	/	演習	トレーニング・試験練習(パフォーマンス)	
13	/	演習	トレーニング・試験練習(パフォーマンス)	
14	/	試験		
15	/	振り返り	後期に向けてのトレーニングプラン作成	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	キャリアデザインⅡ (Career Design II)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鈴木
学科・コース	エコ・コミュニケーション科Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	通年 曜日・時限
教員の略歴	動物系専門学校卒業後、ペット用品、魚病薬を製造販売しているメーカーにて営業として勤務						
授業の学習内容	学校での校内講義、および校外講義を実施し、職業人教育を通し、社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。 また個人での取り組みや、グループでの取り組みを行い、主体性を身につける。						
到達目標	個人及びグループ内でお客様や展示を考慮し、ニーズに合わせた企画、発表ができる。 企業の取り組みについて、理解する。						
評価方法と基準	試験30%、取り組み状況・課題提出20%、出席50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月10日	講義	キャリアサポートアンケート、ITリテラシー	
2	4月24日	講義	クラスノームについて、インターシップについて	
3	5月8日	講義	ZOOMの使い方 関西実習について	事前にZOOMインストール、パソコン持参
4	5月15日	講義、演習	楽天球場観戦	
5	5月22日	講義、演習	学園祭準備(クラスマネジメント、ブレインストーミング)	パソコン持参
6	6月5日	講義、演習	学園祭準備(クラスマネジメント、企画・準備)	パソコン持参
7	6月12日	講義、演習	パッキング練習 POP作成(アクアルーム)	
8	6月19日	講義、演習	パッキング練習 POP作成(アクアルーム)	
9	7月3日	講義、演習	体感型推理ゲーム(クラスマネジメント)	
10	7月10日	講義、演習	POP作成 水族館のチラシなど	
11	7月17日	講義	性格診断	
12	7月24日	講義	性格診断でチーム分けして水族館研究	
13	8月21日	講義	DXリテラシー、担任とおき講座Ⅰ	資料
14	8月28日	講義	担任とおき講座Ⅱ、テスト前ふりかえり	資料
15	9月4日	講義	テスト	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	ビジネスマナーⅡ (Business Manner Ⅱ)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	前田英雅
学科・専攻	エコ・コミュニケーション科Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
教員の略歴	長崎大学大学院海洋生産科学研究科博士課程修了後、滋慶学園に就く。今年24年目を迎え、これまで教務部、キャリアセンターを経て、今年度より仙台ECO教務部長へ就任。						
授業の学習内容	タイトルは「ビジネスマナーⅡ」であるが、ビジネスマナーだけではなく卒業年度ということで就職活動に必要な情報、マナー、ルール、スキル、マインドを身につけることを目的とする。そのため、前半で就職活動に必要な情報、知識、スキルを、後半でビジネスマナーを学ぶ。 「ビジネスマナーは相手への配慮」のためのものであるが身につけたら自分自身、仕事がしやすくなるもの。						
到達目標	卒業年度学生に対し、社会人に必要なビジネススキルを身につけ、就職試験を突破できるようになる。またインターンシップ、就職採用試験の流れについて理解し、全員が今年度インターンシップに行き、希望する企業への就職で内定を獲得することができるようになる。						
評価方法と基準	テスト 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/4・5	講義	これからの就職活動について	
2	4/9・12	講義	インターンシップの流れについて	
3	4/16・ 19	講義	自己分析・業界研究①	
4	4/23・ 26	講義	自己分析・業界研究②	
5	5/7・10	講義	履歴書作成	
6	5/14・17	講義・演習	面接(グループ・個人・WEB面接)について	
7	5/21・ 24	講義	グループディスカッション	
8	5/28・ 31	講義	合同企業説明会ガイダンス	
9	6/18・ 21	講義	採用試験のビジネスマナー	
10	6/25・ 28	講義	ビジネスコミュニケーション(職場での振る舞い)①	
11	7/2・5	講義	ビジネスコミュニケーション(職場での振る舞い)②	
12	7/9・12	講義	筆記試験&WEBテスト	
13	7/16・ 19	講義	「働くとは」キャリアセンタースタッフより	
14	8/20・ 23	講義	試験	
15	8/27・ 30	講義	振り返り	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	ナチュラルケア (Natural Care)	必修 選択	必修・選択必修・選択等	年次	2	担当教員	宮崎 みどり
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
教員の略歴	動物系専門学校卒業、動物ショーの会社に勤務(アニマルトレーナー、イベント企画)後動物系専門学校非常勤講師						
授業の学習内容	マッサージを中心にホリスティックケアを学ぶ						
到達目標	手軽に取り入れることのできるケアを知り、人も動物も心地よくマッサージできるようになる						
評価方法と基準	定期試験:80% 授業態度と参加度:20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	ホリスティックケアについて	
2	/	講義	植物療法 各種①	講義範囲を予習・復習する。
3	/	講義	フラワーエッセンス②	講義範囲を予習・復習する。
4	/	講義	Tタッチについて	講義範囲を予習・復習する。
5	/	講義	マッサージについて①	講義範囲を予習・復習する。
6	/	講義	マッサージについて②	講義範囲を予習・復習する。
7	/	講義	マッサージについて③	講義範囲を予習・復習する。
8	/	講義	マッサージについて④	講義範囲を予習・復習する。
9	/	講義	肉球クリーム作り実習	講義範囲を予習・復習する。
10	/	講義	音楽セラピーについて	講義範囲を予習・復習する。
11	/	講義	マッサージ演習①	講義範囲を予習・復習する。
12	/	講義	マッサージ演習②	講義範囲を予習・復習する。
13	/	講義	精油でのマッサージ演習③	講義範囲を予習・復習する。
14	/	試験	授業総括	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
15	/	講義	振り返り	試験範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習			学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習する。	
【使用教科書・教材・参考書】 イラストで見る 動物の飼養管理				

科目名 アニマルケア (英) (Animal Care)		必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	長嶺 幸介
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
教員の略歴	競走馬牧場、乗馬クラブ、総合ペットショップ、移動動物園、NPO法人生態科学研究所副理事						
授業の学習内容	動物飼育の仕事に従事するにあたって必要な知識や、動物たちに対しての正しい取り扱いについて学ぶ 動物たちの生命に対して責任をもってお世話ができ、適正な扱いや考え方を学ぶ						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・動物たちの適正管理ができる ・動物たちに対して丁寧で愛情を持った扱いや考え方ができる ・観察力を身につける 						
評価方法と基準	授業内評価: 40% 定期試験: 60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	動物の適正管理について理解できる	ノート整理とまとめ
2	/	〃	観察方法と記録方法について理解できる	〃
3	/	〃	観察とまとめ方	〃
4	/	〃	動物の行動管理について理解できる	〃
5	/	〃	適正な行動をするために必要なことが理解できる	〃
6	/	〃	動物福祉とエンリッチメント	〃
7	/	〃	エンリッチメントと検証	〃
8	/	〃	トレーニング理論を知る	〃
9	/	〃	トレーニング理論について理解できる	〃
10	/	〃	適正な食事管理について理解できる	〃
11	/	〃	草木類の主な種が同定できる(野生)	〃
12	/	〃	草木類の主な種が同定できる(牧草)	〃
13	/	〃	草木類の主な種が同定できる	〃
14	/	〃	テスト	〃
15	/	〃	まとめ	〃
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	繁殖生理学概論 (Theriogenology)	必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	2	担当教員	関口順子
	学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	愛玩動物看護師 大学卒業後犬・猫テーマパーク勤務を経て動物系専門学校教員						
授業の学習内容	犬の繁殖に関わる機能形態・生理を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を習得する。						
到達目標	繁殖に関わる形態と機能、妊娠・分娩、遺伝学の基礎を理解し、説明することができる						
評価方法と基準	テスト結果: A…100～80点、B…79～70点、C…69～60点、D…59～0点として評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	雌雄生殖器の構造・働きについて説明できる	
2	/	講義	性成熟・メスの生理学について説明できる	
3	/	講義	卵巣周期・オスの生理学について説明できる	
4	/	講義	受精と着床、繁殖に関わるホルモン、交配について説明できる	
5	/	講義	妊娠犬の管理について実践できる	
6	/	講義	妊娠検査、出産する時期について説明できる	
7	/	講義	出産の準備、兆候、正常な流れについて説明できる	
8	/	講義	難産、出産後の管理、新生子の身体検査について説明できる	
9	/	講義	断耳・断尾について説明できる	
10	/	講義	血統書について説明できる	
11	/	講義	遺伝と毛色について説明できる	
12	/	講義	繁殖形態と遺伝性疾患について説明できる	
13	/	講義	テスト範囲の確認と総復習	
14	/	講義	試験	
15	/	講義	試験返却と振り返り・まとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	トリミング演習 I ()	必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	2	担当教員	三浦 悦子
		授業 形態	講義・演習・実 習等	総時間 (単位)	180 12	開講区分	前期・後期・通 年・集中等
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部						
教員の略歴	動物系専門学校卒業後トリミングサロン勤務を経て独立						
授業の学習内 容	実際にモデル犬を使って、犬種別にベーシックを行い、クリッピングやシザーワークを学ぶ						
到達目標	犬種別のベーシックを習得しながら、トリミングの基礎学ぶ。基本的なカットやシザーワークを身につける						
評価方法と基準	1) 定期テスト80% 2) 平常点20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	トリミングが実践出来る	演習範囲の予習・復習をする
2	/	演習	トリミングが実践出来る	演習範囲の予習・復習をする
3	/	演習	トリミングが実践出来る	演習範囲の予習・復習をする
4	/	演習	トリミングが実践出来る	演習範囲の予習・復習をする
5	/	演習	トリミングが実践出来る	演習範囲の予習・復習をする
6	/	演習	トリミングが実践出来る	演習範囲の予習・復習をする
7	/	演習	トリミングが実践出来る	演習範囲の予習・復習をする
8	/	演習	トリミングが実践出来る	演習範囲の予習・復習をする
9	/	演習	トリミングが実践出来る	演習範囲の予習・復習をする
10	/	演習	トリミングが実践出来る	演習範囲の予習・復習をする
11	/	演習	トリミングが実践出来る	演習範囲の予習・復習をする
12	/	演習	トリミングが実践出来る	演習範囲の予習・復習をする
13	/	演習	トリミングが実践出来る	演習範囲の予習・復習をする
14	/	試験	演習範囲	演習範囲の予習・復習をする
15	/	講義	まとめ	演習範囲を振り返る
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				
グルーミングテキスト				

科目名 (英)	ショップ演習Ⅱ (Shop ExerciseⅡ)		必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	朝比奈理一
	学科・コース	エコ・コミュニケーション科Ⅰ部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
教員の略歴	アクアプロジェクトナッシュビルにて、生体やアクア商品の販売や外部施設のメンテナンス業務に従事しています。							
授業の学習内容	校内での管理作業の経験を活かし、実際に営業している店舗での水槽維持管理作業、および出張先でのお客様施設における水槽設備管理作業を実施し、水槽維持管理作業の要点について理解する。							
到達目標	生体及び設備内容、水槽内の状況を見ることで管理作業内容の組み立てができる。また水槽の維持管理作業(水槽内清掃及び換水)を行うことができる							
評価方法と基準	授業内評価100%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習と講義	実店舗での生体及び設備管理作業 ※生体の入荷、調整、水の管理 ※店舗としての運営にかかる接客や 店内清掃ができる	
2	/	演習と講義		
3	/	演習と講義		
4	/	演習と講義		
5	/	演習と講義		
6	/	演習と講義		
7	/	演習と講義		
8	/	演習と講義		
9	/	演習と講義		
10	/	演習と講義		
11	/	演習と講義	お客様(個人宅)での水槽メンテナンス作業	
12	/	演習と講義		
13	/	演習と講義		
14	/	試験		
15	/	講義		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	動物行動学 II	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	大竹静枝
	(Science of Animal Behaviour II)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	通年
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部						
教員の略歴	野生ニホンザル、新世界ザルの調査に従事。ロスアンデス大学、宮城教育大学、専門学校での講師歴は34年に及ぶ。						
授業の学習内容	1)動物園観察会の発表と運営を自分達でおこなう。 2)生命の誕生から、現存の動物に至る道筋を学ぶ。						
到達目標	1)動物を扱うプロとして、お客様対応の技術をつける。 2)現存の動物がもつ、形と行動の意味を把握する。						
評価方法と基準	1)レポート、テスト 40% 2)授業内評価 60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月12日	講義	地球史と質問力の必要性、見学予定	観察会口頭原稿の持参
2	4月19日	講義	観察会進行、役割分担と問いかけ確認	問いかけを複数準備
3	4月26日	動物園リハーサル	観察会の運営と最終確認	小道具の準備と進行の確認
4	5月10日	動物園観察会	各自最高の発表を目指す	発表原稿の暗記
5	5月17日	動物園観察会	(自習課題:酸素大発生之谜を知る)	課題レポートの仕上げ
6	5月24日	講義	観察会反省と次の発表課題	新たなテーマに挑戦
7	5月31日	講義	何故、地球に生命が発生したか?	地球史の復習
8	6月14日	講義	カンブリア紀の軍拡競争	地球史の復習
9	6月21日	講義	植物上陸による、新たなステージ	地球史の復習
10	6月28日	講義	恐竜絶滅	地球史の復習
11	7月5日	講義	哺乳類の夜明け	前回の復習
12	7月12日	講義	林冠の共生関係	前回の復習
13	7月19日	施設見学	東北大学付属植物園	課題レポート仕上げ
14	9月6日	テスト	前期の振り返り	課題レポート提出
15	9月13日	講義	総復習	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ 映像機器、ボード、資料コピーを使用				

科目名 (英)	トレーニング概論Ⅱ (Instruction of Trainingに)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	岡村裕美
学科・コース	エコ・コミュニケーション科Ⅰ部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	120 8	開講区分	通年 曜日・時限
教員の略歴	複数の動物園 水族館に勤務。飼育展示、調教、広報、ショーの運営進行などを経験。飼育技師資格有						
授業の学習内容	①動物と関わるうえでの安全性を学び、動物の訓練方法を習得するために授業を受ける。 ②動物の生態や飼育方法、動物園に携わる科目とも深く関係する。 ③学生の皆様には、実際に動物と接しながら、人と動物双方の安全を確保し、訓練の基礎やパフォーマンスを実施。現在の状況を踏まえて幅広いトレーニングが出来るようになっていただきたい。						
到達目標	①動物を深く観察する目を養い、日々の訓練が出来るようになる。 ②基礎を授業で学び、時間外学習にて訓練を実践できる。 ③過去の失敗事例を含めて指南し、訓練や調教知識を養う ④展示としてのパフォーマンスを取得する						
評価方法と基準	1) 定期試験 50% 2) 実技試験 20% 3) 時間外学習(継続訓練)及授業内評価 30% ※筆記試験の達成の目安:理想的な達成レベルはC以上 ※実技及び時間外学習はルーブリック評価とする						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義と演習	訓練実施における安全について理解でき	飼育ハンドブック読み返し
2	/	講義と演習	馴致と訓練の関係性を理解できる	飼育ハンドブック読み返し及びノート復習
3	/	講義と演習	動物観察の基礎を理解し、実践できる	ノート復習及び実習の復習
4	/	講義と演習	訓練動物の学習理論について知る	〃
5	/	講義と演習	ターゲット訓練に用いる道具を理解作成できる	〃
6	/	講義と演習	猛禽訓練に用いる道具を理解 実践でき	〃
7	/	講義と演習	動物からの攻撃について理解できる	〃
8	/	講義と演習	訓練方法の今昔について理解できる	〃
9	/	講義と演習	現場での獣舎や訓練方法について理解できる	〃
10	/	講義と演習	訓練や世話における道具の重要性を理解でき	〃
11	/	講義と演習	訓練に適した人材について知る	〃
12	/	講義と演習	海外の動物訓練事情を知る	実技テスト準備
13	/	講義と実技試験	前期まとめと実技テスト	前期振り返りの復習及び試験準備
14	/	試験	記述テスト	
15	/	解説	前期ふりかえり	
準備学習 時間外学習		担当班に分かれ、訓練対象動物の訓練を時間外に実施する		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
改訂版 新 飼育ハンドブック(動物園編)				

科目名 (英)	ドッグトレーニングⅡ ()	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	南條絵美
学科・コース	エコ・コミュニケーション科Ⅰ部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 8	開講区分 曜日・時限	通年
教員の略歴	ドッグトレーナー(ワンワン・トレーニングスクール)						
授業の学習内容	担当犬が得意とする分野の科目を選択して犬に教える 1年生までの総復習 休止(やすめの命令で指導士の姿がみえなくてもその場にとどまれる様に教える)						
到達目標	JKCの訓練規定に準じてCD-Is CD-Iまでできるようにする						
評価方法と基準	授業態度 60% 実技試験 40%をベースに理解度、工夫があるか、コミュニケーション力など総合的に評価する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	1年生までの総復習	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
2	/	演習	1年生までの総復習	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
3	/	演習	1年生までの総復習	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
4	/	演習	紐なし脚側行進	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
5	/	演習	紐なし脚側行進	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
6	/	演習	招呼	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
7	/	演習	常歩行進中の停座	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
8	/	演習	常歩行進中の伏臥	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
9	/	演習	常歩行進中の立止	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
10	/	演習	選択科目練習	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
11	/	演習	休止	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
12	/	演習	選択科目練習	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
13	/	演習	CD-Is CD-I	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
14	/	演習	CD-Is CD-I	次回までに指摘された箇所をクリア にしておく
15	/	試験		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 動物飼育管理 I (英) (Animal Breeding I)		必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	津嶋 一樹	
学科・コース		エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	120 8	開講区分 曜日・時限	通年
教員の略歴	動物系専門学校卒業後「(株)東北サファリパーク」入社 2021年8月に本校講師就任							
授業の学習内容	学校にて飼育している動物の管理や観察の方法を学び、飼育の知識・経験を養う							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校動物の基本的な管理、飼育ができる ・動物の健康状態を判断し、状況に合わせた対応ができる ・時間管理やコミュニケーション等を自ずと実践できる 							
評価方法と基準	授業内評価:40% レポート:40% 小テスト:20%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	学校動物の種類を理解できる	復習・レポート
2	/	〃	動物飼育の注意点を理解できる	〃
3	/	〃	飼育の心構えを理解できる	〃
4	/	演習	飼育の流れを把握できる	〃
5	/	〃	協力して飼育できる	〃
6	/	〃	コミュニケーション能力を発揮できる	〃
7	/	〃	時間管理ができる	〃
8	/	〃	動物観察ができる	〃
9	/	〃	周囲に気を配ることができる	〃
10	/	〃	計画を立てて飼育ができる	〃
11	/	〃	優先順位を理解できる	〃
12	/	〃	積極的にやるべきことに取り組める	〃
13	/	〃	小テスト	〃
14	/	〃	まとめ	〃
15	/	〃	臨機応変な対応ができる	〃
16	/			
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	動物学概論 (Introduction to Animal Training)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	津嶋 一樹
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	前期
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部						
教員の略歴	動物系専門学校卒業後 「(株)東北サファリパーク」入社 2021年8月に本校講師就任						
授業の学習内容	課題を見つけ、改善する力を身に付ける 社会人として求められる能力を高める(観察力、企画力、実行力等)						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物事をわかりやすく伝えられる発信力を身に付ける ・パソコンを扱い、企画書の作成ができるようになる ・プレゼンテーションができるようになる 						
評価方法と基準	授業内評価:80% レポート:20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	レポート・計画書の作り方を理解できる	復習
2		〃	企画書を作成できる	〃
3		〃	チームを構成し、問題点や課題を発見できる	〃
4		〃	課題に対する改善策を検討できる	〃
5		〃	課題解決の為にスケジュールを作成できる	〃
6		〃	スケジュールに従い課題を解決する	〃
7		〃	〃	〃
8		〃	〃	〃
9		〃	〃	〃
10		〃	〃	〃
11		〃	〃	〃
12		〃	プレゼンテーションについて理解できる	〃
13		〃	これまで取り組んだ内容をプレゼンできる	〃
14		〃	まとめ	〃
15		〃	振り返り	〃
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	動物園研究Ⅱ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	阿部敏計
	(Zoological Garden StudyⅡ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	通年
学科・コース	エコ・コミュニケーション科Ⅰ部						
教員の略歴	東北大学農学部修士修了後、八木山動物公園勤務、2017年副園長で退職、2023年より河北町児童動物園学芸員採用						
授業の学習 内容	①動物を飼育管理する上で、基本的な動物の生態・繁殖・生理を学ぶことは必要なので授業を行う。②全科目と関係。③動物園で飼育されている主な動物の基本的な生態・繁殖・生理についてと動物を取り巻く環境を覚えて欲しい。 動物を取り巻く環境と哺乳類(サル類、肉食獣、草食獣、有袋類)と爬虫類・両生類の繁殖と生理のキーワードについて学ぶ。また、八木山動物公園の動物の飼育管理状況も学ぶ。						
到達目標	動物園で飼育されている主な動物の生態・繁殖・生理を学ぶと共に、公立動物園の飼育専門員採用試験の専門試験にも対応できるようにする。						
評価方法と 基準	1)定期試験60% 2)授業内評価40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	講義	サル類、肉食獣、草食獣、有袋類、鳥類、爬虫類の繁殖・生理を説明できる 1	講義範囲を復習する
2		講義	サル類、肉食獣、草食獣、有袋類、鳥類、爬虫類の繁殖・生理を説明できる 2	講義範囲を復習する
3		講義	サル類、肉食獣、草食獣、有袋類、鳥類、爬虫類の繁殖・生理を説明できる 3	講義範囲を復習する
4		講義	生殖器(子宮、卵巣、卵管、精巣)を説明できる	講義範囲を復習する
5		講義	発情周期、妊娠期間、妊娠診断、抱卵日数を説明できる	講義範囲を復習する
6		講義	着床、排卵、ホルモン、卵子、精子、産卵について説明できる	講義範囲を復習する
7		講義	動物園動物の繁殖・生理の要点を説明できる	講義範囲を復習する
8		講義	動物園の哺乳類の飼育管理を説明できる	講義範囲を復習する
9		講義	動物園の鳥類の飼育管理を説明できる	講義範囲を復習する
10		講義	動物園の爬虫類の飼育管理を説明できる	講義範囲を復習する
11		講義	生態:バイオームと収斂進化を説明できる	講義範囲を復習する
12		講義	生態:フェロモンとフレーメンを説明できる	講義範囲を復習する
13		講義	生態:本能と学習を説明できる	講義範囲を復習する
14		試験	評価試験	
15		解説	試験の解説	試験範囲を振り返り、理解を深める
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				
新 改訂版 飼育ハンドブック 動物園編 1と3 (日本動物園水族館協会刊行)等				

科目名 (英)	アニマルエデュケーションⅡ Animal Education II	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	渋谷睦美
学科・コース	エコ・コミュニケーション科Ⅰ部	授業 形態	講義 演習 実習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	通年
教員の略歴	1996年4月～2001年10月まであわしまマリンパークに所属し、飼育、ショーやプログラムなどのエデュケイト企画開発・実施、スタッフ教育を行う。2003年からは専門学校において講師を行い現在に至る。						
授業の学習内容	1年生時に習得した飼育や生物についての知識を人に伝えることにより深い知識とし、トレーナーの仕事である、人に伝える方法を実習をもって習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムを企画し解説原稿を作成することができる。 ・ナレーション技術(人前で話すにあたって)を理解し課題に合わせた応用ができる。 ・実習を通して、ナレーション技術を習得する。 						
評価方法と基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験(0%) 2. 小テスト(0%) 3. レポート(40%) 4. 課題成果(0%) 5. 実地試験(60%) 以上の割合で前期評価とします。 						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	/	講義	オリエンテーション 授業目標と授業内容を理解する		
2	/	講義と演習	水族館の解説の種類や役割の理解と課題を確認する		
3	/	講義と演習	プログラムデザインの方法の学習と、課題内容からの解説原稿作成する		
4	/	講義と演習と実習	ナレーション技術(姿勢・声)を身につける		
5	/	講義と演習と実習	ナレーション技術(声・言葉)を身につける		
6	/	講義と演習と実習	ナレーション技術(ボディランゲージ・小道具・問いかけ)を身につける		
7	/	実習	課題発表(一部)とクラスメイトの評価、課題の見直しをする(1グループ目発表)		
8	/	実習	課題発表(一部)とクラスメイトの評価、課題の見直しをする(2グループ目発表)		
9	/	実習	課題発表(一部)とクラスメイトの評価、課題の見直しをする(3グループ目発表)		
10	/	実習	課題発表(一部)とクラスメイトの評価、課題の見直しをする(4グループ目発表)		
11	/	講義と演習	評価集計結果に基づく解説原稿の見直しをする		
12	/	実習	2回目課題発表とクラスメイトの評価、見直し効果の確認をする(1グループ目発表)		
13	/	実習	2回目課題発表とクラスメイトの評価、見直し効果の確認をする(2グループ目発表)		
14	/	実習	2回目課題発表とクラスメイトの評価、見直し効果の確認をする(3グループ目発表)		
15	/	実習	2回目課題発表とクラスメイトの評価、見直し効果の確認をする(4グループ目発表)		
準備学習 時間外学習			解説原稿を作成するにあたって、1年生時の講義や研修を復習しておく必要があります。また、課題を取り組むにあたり、毎回講義の復習が必要です。		
【使用教科書・教材・参考書】 □					

科目名 (英)	クラフトワークⅢ	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	佐藤勇
	(Craft Work Ⅲ)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	通年
学科・コース	エコ・コミュニケーション科Ⅰ部						
教員の略歴	多摩動物公園飼育員として勤務後、動物系専門学校勤務						
授業の学習内容	①「なぜこの授業を受けなければならないのか？」 動物園の園長から最近の学生は工具の使い方が全く分からない。だから道具を使える学生にしてほしいと言われた。 ②「どの科目と関係するのか、その位置づけ」 動物に関わるモノづくりの為、動物の行動や生態生理等すべての科目とつながる。 ③「学生にどうなって欲しいか」(講師の思い) 飼育作業を通して必要なものが作れる。また壊れたものを直せる技術を持った飼育員になってほしい。						
到達目標	①学生が達成すべき行動目標(何が出来るようになるか)と学習内容との関係を記載 基本である手動(ノコギリ等)の工具が使い、さらに電動工具を正しく安全に使いそれをベースに木材・アクリル・塩ビパイプ・ガラス等の素材を使った加工が出来るようになること。						
評価方法と基準	モノづくりには得手不得手がある。上手い学生は上手い苦手な学生との差は大きい。また作業が早い学生遅い学生それぞれを均一化する授業ではない。それぞれのペースで手を抜かず一所懸命納得のいくものを作る。その結果の評価はそれぞれの個性を尊重した絶対評価とする。特に試験は行わず出来上がった作品と取り組み姿勢それに出席率を加味した総合評価とする。						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1	/	演習	一事が万事 ①古賀忠道園長DVD「学生製作版」 ②DVD鑑賞:「ビル清掃 新津春子」	自己紹介・DVD鑑賞	
2	/	演習	①雑巾を絞る。ノコギリで角材(30×40)を切る。	ノコギリ・スコヤを使う(引いて切る)	
3	/	演習	キューブ製作①	四角いものを四角にする。	
4	/	演習	キューブ製作②	ボール盤で穴をあける。下穴をミニボール盤であける	
5	/	演習	キューブ製作③	毛がいてインパクトドライバー組立・着色・ニス仕上げ	
6	/	演習	シードサンプル①	講義(鳥)・鳥の餌・すり餌を作る(実演)	
7	/	演習	シードサンプル② シードを覚える(ハト餌・フィンチ餌)	ステンボードを使う	
8	/	演習	DVD鑑賞:「天皇の料理番」研修生の心構え	徒弟制度 「仕事は教えない」	
9	/	演習	小鳥の巣箱製作①	正確に作る・スライドマルノコを使う	
10	/	演習	小鳥の巣箱製作②	角度切り・丁番を使う	
11	/	演習	小鳥の巣箱製作③	ウッドバーニング・丸棒を付ける	
12	/	演習	小鳥の巣箱製作④	着色・仕上げ	
13	/	演習	調整日(進行状況把握) DVD鑑賞:「πウォーター」「コンラートローレンツ」		
14	/	演習	ロープワーク①「もやい結び・他」	6mmクレモナロープを使ったもやい結び・他	
15	/	演習	ロープワーク②「編込み」	編込み末端処理	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 □					

科目名 (英)	水族館飼育演習Ⅱ (Practice of Aquatic Animal Management)		必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	2	担当教員	鈴木 達也
	学科・コース	エコ・コミュニケーション科Ⅰ部	授業 形態	講義・演習・実 習等	総時間 (単位)	60 4	開講区分	通年
教員の略歴	動物系専門学校卒業後、ペット用品、魚病薬を製造販売しているメーカーにて営業として勤務							
授業の学習内容	校内外の動物施設で実際の飼育管理や施設管理について学ぶ。 見学実習や、業界で働かれている方の特別講義を通して”今”の水族館に関して理解を深める。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各実習地で飼育、展示に関して見て学び、物事の”理由”を添えてレポートでまとめることができる ・実習前講義で学んだことをしっかり予習し、当日実践することができる(ポイントを抑え、イルカにサインを出す) ・実習、特別講義を通して自分の目指す水族館を探す 							
評価方法と基準	実習態度50%、レポート50%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5月29日	演習	鳥羽水族館にて見学実習	
2	5月29日	演習	鳥羽水族館にて見学実習	
3	5月29日	演習	鳥羽水族館にて見学実習	
4	5月29日	演習	鳥羽水族館にて見学実習	
5	5月29日	演習	鳥羽水族館にて見学実習	
6	5月30日	演習	ドルフィンベイス・くじらの博物館にて実習	
7	5月30日	演習	ドルフィンベイス・くじらの博物館にて実習	
8	5月30日	演習	ドルフィンベイス・くじらの博物館にて実習	
9	5月30日	演習	ドルフィンベイス・くじらの博物館にて実習	
10	5月30日	演習	ドルフィンベイス・くじらの博物館にて実習	
11	5月31日	演習	名古屋港水族館にて見学実習	
12	5月31日	演習	名古屋港水族館にて見学実習	
13	5月31日	演習	名古屋港水族館にて見学実習	
14	5月31日	演習	名古屋港水族館にて見学実習	
15	5月31日	演習	名古屋港水族館にて見学実習	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	フィールドワークⅡ (Oversation and FieldworkⅡ)	必修 選択	必・選択必 修・選択等	年次	2	担当教員	浅岡
学科・コース	エコ・コミュニケーション科Ⅰ部	授業 形態	講義・演習・実 習等	総時間 (単位)	120 8	開講区分	前・後期・通 年・集中等
教員の略歴	環境系NPO法人で耕作放棄地の利活用、環境再生活動、自然教育活動およびその指導に携わる						
授業の学習内 容	校外学習を通して水生生物の生態や生物を取り巻く環境について学ぶ。 野外活動での危険性を知り、自然環境中を含む屋外での安全を意識したイベントを実行できる人材を目指す。						
到達目標	野外活動での危険把握、安全管理の必要性を理解し、安全確保の上で活動することができるようになる。 水辺での各種活動に必要な道具類の名称と正しい使用法、その管理ができるようになる。 水生生物の最適な観察法や基礎的採捕法を習得することができるようになる。 水辺での各種体験活動において、水生生物の解説ができるようになる。 (こども向けイベント等でやさしい言葉で水生生物の解説ができるようになること)						
評価方法と基準	筆記試験 ← 100段階で判定する 取組状況 ← 毎回の演習への取り組み状況を2段階で判定する 提出物 ← 提出物を4項目(提出期日、正確さ、自律学習度、IT使用)で判定する 筆記試験で50%、取組状況と提出物を合わせて50%、の合計を評価点とする						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/12	講義	野外での安全管理・危険について説明できる	身近な危険、野外での危険について議論する
2	4/19	講義	河川での活動における危険について説明できる	ワークシート
3	4/26	講義	海での活動における危険・危険生物について説明できる	ワークシート
4	5/10	講義	タモを使用した基本的採捕法の説明ができる	ワークシート
5	5/17	演習	微小生物を含む小型水生生物の解説ができる	ワークシート
6	5/24	講義	採捕道具(釣り道具)について解説できる	ワークシート
7	5/31	演習	底生魚類・甲殻類の採捕について解説できる	ワークシート
8	5/17・5/31	課題	第5回、第7回の演習における課題	ワークシート
9	6/14	講義	河川生物(水生昆虫)のホタルについて解説できる	ワークシート
10	6/21	演習	ホタルの観賞における留意点について解説できる	ワークシート
11	6/28	講義	湿地での活動について解説できる	ワークシート
12	7/5	演習	干潟生物およびその観察について解説できる	ワークシート
13	6/21・7/5	課題	第10回、第12回の演習における課題	ワークシート
14	7/12	講義	前期授業のまとめ	左記学習内容について復習(3時間以上)をする
15-1	9/8	試験	筆記試験	前期学習内容について復習(3時間以上)をする
15-2	9/13	講義	振り返り	試験で間違えた項目について復習をする
準備学習 時間外学習			授業内で使用するワークシートのノートへの転記がよい。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
演習時に必要なもの → 用箋ハサミ、フィールドノート、フィールドブーツ、フィールドハット、ユニフォーム、タオル、雨具、カメラ、デジタル水温計、釣り具一式				

科目名 (英)	海洋保全 (Marine Ecology)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	岡村淳市
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	120 8	開講区分	通年
教員の略歴	<p>民営、公立、公営の3形態の水族館に勤務、展示・教育普及部門を経験する。学芸員有資格者</p>						
授業の学習内容	<p>海洋国家・日本と国際社会の基本的なルールを学び、置かれている現状を理解する。また、動物園水族館を博物館法の視点から見つめ調査・研究機関であることも認識する。ワークショップ形式の各術をもって、自ら作成した出来形を完成させる。</p>						
到達目標	<p>①海洋に関する国際的な法規の解釈を理解する。 ②海洋・陸水に関する国内的な法規を理解する。 ③海洋の調査・研究機関でもある博物館機能や国家資格制度について知見を得る。 ④志望する分野の職業に就いたときのために、現状に対する課題解決能力を養う。</p>						
評価方法と基準	<p>記述試験60% 授業内評価40% (記述試験 :理解度、解説・文章力を評価) (授業内評価: 受講姿勢、発言および出席率を評価)</p>						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/9	講義	海と人の関わり、産業の発展を知る。	配布資料巻末の「まとめ」を各自復習
2	4/16	講義	海洋の国際条約の解釈を知る。	〃
3	4/23	講義	海洋・陸水の国内法令などを知る。	〃
4	5/7	講義	種の多様性と外来種問題を知る。	〃
5	5/14	講義	博物館法と指定管理者制度を知る。	〃
6	5/21	講義	水産業の課題と養殖業の基礎を知る	〃
7	5/28	講義	保全と保護の違いや事例を知る。	〃
8	6/11	演習	統計分析術を習得できる。	
9	6/18	演習	〃	
10	6/25	演習	資料保存術を習得できる。	
11	7/2	演習	〃	
12	7/9	演習	〃	
13	7/16	講義	各巻末資料の「まとめ」を解説する。	
14	8/20	講義	記述テスト	
15	8/27	講義	試験結果の質疑・回答および解説	
準備学習 時間外学習			授業予定テーマの予習および各巻末まとめ問題の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 各回配布資料				

科目名 (英)	海洋生態 (Marine Ecology)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	岡村淳市
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	通年
教員の略歴	<p>民営、公立、公営の3形態の水族館に勤務、展示・教育普及部門を経験する。学芸員有資格者</p>						
授業の学習内容	<p>専門書、水産系教科書などを用い、水生生物をとりまく環境に主眼を置き、学習する。また、海洋に係る各産業についての情報を知り、職業選択の幅を広げる一助とする。一部、標本資料や映像などを使用する。</p>						
到達目標	<p>①人が自然環境とどう関わっているか各海洋関連産業と結びつけて専門的な知識を養う。 ②海洋に係る各特性のあらましや位置づけを理解する。</p>						
評価方法と基準	<p>記述試験60% 授業内評価40% (記述試験 :理解度、解説・文章力を評価) (授業内評価:受講姿勢、発言および出席率を評価)</p>						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/9	講義	海洋の成立や世界の海事史を知る。	配布資料巻末の「まとめ」を各自復習
2	4/16	講義	日本の海洋観測史と技術力を知る。	〃
3	4/23	講義	環境改善技術としての魚道を知る。	〃
4	5/7	講義	海洋土木の必要性和課題を知る。	〃
5	5/14	講義	海上運搬の必要性和課題を知る。	〃
6	5/21	講義	海洋油濁の処理や方法を知る。	〃
7	5/28	講義	海流の分布や漂着生物を知る。	〃
8	6/11	講義	潮汐の作用や地域的特徴を知る。	〃
9	6/18	講義	海中の光が及ぼす作用や影響を知る。	〃
10	6/25	講義	栄養塩がもたらす影響を知る。	〃
11	7/2	講義	水温変化や特性を知る。	〃
12	7/9	講義	塩分濃度の仕組みを知る。	〃
13	7/16	講義	まとめ	
14	8/20	講義	記述テスト	
15	8/27	講義	まとめ	
準備学習 時間外学習			授業予定テーマの予習および各巻末まとめ問題の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 各回配布資料				

科目名 (英)	資源増殖	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	岡村淳市
	(Aquaculture)	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	通年
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部						
教員の略歴	民営、公立、公営の3形態の水族館に勤務、展示・教育普及部門を経験する。学芸員有資格者						
授業の学習内容	水産増養殖および栽培漁業に対する基礎知識を習得した後、実際に水産育種として生産している実例を学習する。合わせて、水産業界での管理運営と商品出荷から消費者へ届くまでの一連の流れを把握し、一次産業就労希望者への一助となる思考と専門的な知識を養う。						
到達目標	①栽培漁業、増養殖のあらましと現状や最新事情について理解を深める。 ②各育種の養殖実例を理解する。 ③生産、出荷、流通という一次産業の流れを俯瞰的に理解する。						
評価方法と基準	記述試験60% 授業内評価40% (記述試験 :理解度、解説・文章力を評価) (授業内評価:受講姿勢、発言および出席率を評価)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	資源調達と回復、栽培漁業の価値を知る。	配布資料巻末の「まとめ」を各自復習
2		講義	増養殖の沿革、変遷を知る。	〃
3		講義	増養殖の現状と展望を知る。	〃
4		講義	増養殖の種苗生産方法と分類を知る。	〃
5		講義	繁殖誘因の仕組みと人工採卵方法を知る。	〃
6		講義	養殖の生産性を左右する育種選抜を知る。	〃
7		講義	生産効率を向上する雑種強勢を知る。	〃
8		講義・演習	三倍体育種の開発現場を知る。	〃
9		講義・演習	水産教育機関の養殖事例を知る。	〃
10		講義	コイ・ニシキゴイの増養殖を知る。	〃
11		講義	キンギョの増養殖を知る。	〃
12		講義	ウナギの増養殖を知る。	〃
13		講義	各巻末資料の「まとめ」を解説する。	
14		講義	記述テスト	
15		講義	試験結果の質疑・回答および解説	
準備学習 時間外学習			授業予定テーマの予習および各巻末まとめ問題の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 各回配布資料				

科目名 (英)	スイムトレーニングⅡ (Swimming TrainingⅡ)		必修 選択	必修・選択 必修・選択等	年次	2	担当教員	小野
	学科・コース	エコ・コミュニケーション科ドルフィントレーナー専攻2年	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前・後期・通 年・集中等
教員の略歴	株式会社プラゼール【潜水土木業/レジャーダイビング業/海外留学斡旋業/船舶免許講習業など】							
授業の学習内容	小型船舶免許を取得するための対策講座です。 小型船舶操縦士国家試験を受験するのにあたり必要な知識を習得します。							
到達目標	小型船舶操縦士の知識を習得を目指します。							
評価方法と基準	筆記試験の点数で評価する。 筆記試験:評価80% 出席日数や授業への取り組み姿勢:評価20% 上記の合計で評価する。							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	【水上交通の特性】について理解し記することができる	講義内容部の予習と復習
2		演習	【小型船舶操縦士としての心得】を理解し記することができる	講義内容部の予習と復習
3		演習	【小型船舶操縦士としての遵守事項】を理解し記することができる	講義内容部の予習と復習
4		演習	【様々な海域での交通のルール】について	講義内容部の予習と復習
5		演習	【様々な水域での交通のルール】について	講義内容部の予習と復習
6		演習	【基本的な操縦方法】を理解し記することができる	講義内容部の予習と復習
7		演習	【航海に必要な計器・航法・標識】を理解し記することができる	講義内容部の予習と復習
8		演習	【航海に必要な法定装備品】を理解し記することができる	講義内容部の予習と復習
9		演習	【船舶エンジンの取扱い方】を理解し記することができる	講義内容部の予習と復習
10		演習	【気象・海象、荒天航法、事故時の対策】を	講義内容部の予習と復習
11		演習	国家試験対策 試験	
12		演習	1級免許に関わる【設備・気象・海象など】を	講義内容部の予習と復習
13		演習	1級免許に関わる【エンジンの保守点検】を	講義内容部の予習と復習
14		演習	1級免許に関わる【海図】を理解し記することができる	講義内容部の予習と復習
15		演習	1級免許に関わる【海図】を理解し記することができる	講義内容部の予習と復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 小型船舶操縦士学科教本Ⅰ・Ⅱ / 学科Ⅰ・Ⅱ例題集 / 海図 / コンパス / 三角定規				

科目名 (英)	鯨類解剖学 (Whale Anatomy)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	鎌田みゆき	
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期	
教員の略歴	OMRCにてドルフィントレーナー、ネイチャーガイドとして勤務							
授業の学習内容	飼育現場において、“獣医師に必要とされる”および“獣医師の良きパートナーとして共に仕事ができる”スタッフは重宝される。動物 にとってより良い環境を創っていただけるよう、当科目では専門書、資料画像、動画などを用いた講義を主軸に鯨類の基本的な体の構造と各臓器の生理と働きについて学び、経験談を交えてハズバンドリーでの採血の模倣や解剖における作業など、実践的な練習も行う。							
到達目標	・陸棲哺乳類とは異なる体のしくみや臓器形態について説明することができる ・就職した際に現場で即戦力となるため、採血での針の刺し方や取り上げでの担当持ち場、解剖でのアシストを行うことができるようになる							
評価方法と基準	定期テスト		60%		授業態度(あいさつ、返事、質問、取り組み姿勢)			40%

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	/	講義	ガイダンス 授業内容と目標を理解する		
2	/	講義	鯨類の骨格について詳細を学び、 標本の作成方法にも触れる		全身骨格チェック用ワークシート作成
3	/	講義	皮膚・被毛・乳腺・寄生虫について理解する		
4	/	講義と演習	舌・口腔・歯について理解し、飼育鯨類の口 内チェックが実施できるようになる		イルカ口内写真
5	/	講義	消化器系(胃)について理解し、 説ができる		
6	/	講義と演習	消化器系(腸)について理解し、病理部分の 組織標本の作成を体験する		豚ホルモン、メス、ハサミ、トレー、 発泡スチロール、虫ピン、医療用手袋
7	/	講義	肝臓と分解のしくみについて理解する		
8	/	講義	胆嚢・膵臓について理解し、糖尿病と 関係づけて説明することができる		
9	/	講義	腎臓・尿管・膀胱・尿道について理解する		
10	/	講義	呼吸器系(鼻腔・咽頭・喉頭)について 理解し、分類することができる		
11	/	講義	呼吸器系(肺)について理解し、 心臓との関連を説明することができる		
12	/	講義	循環器系(心臓)について理解し、 循環の流れを説明することができる		
13	/	講義	テスト対策として前期講義の総まとめを行う		
14	/	試験	前期テスト		
15	/	講義	ふりかえり		
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 □					
JESC動物の体のしくみ、Atlas of the Anatomy of Dolphins and Whales、イルカ解剖学、解剖写真、模型、標本、iphoneコネクター、スクリーン					

科目名 (英)	観賞魚研究Ⅱ (Ornamental Fish Ⅱ)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	浅岡俊一
学科・コース	エコ・コミュニケーション科Ⅰ部	授業 形態	講義・演習・実 習等	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期・後期・通 年・集中等
教員の略歴	小型魚類・甲殻類の飼養管理、生体を含めた水槽の設置・貸出・維持管理をおこなう「さかなこねこ」代表						
授業の学習内 容	水生生物を飼育する上で必要な生体情報について学び、観賞魚の適切な取扱いについて考える。 特に、観賞魚を取り巻く現状(自然に生息する魚と観賞魚との関係、天然記念物と観賞魚の関係など)について、 生物多様性の観点からみる問題を学び、観賞魚の将来のあるべき状態を考える。 観賞魚の展示についての基本を理解し、適切なレイアウトについて考える。						
到達目標	観賞魚について、形態と色彩からその種を区別することができるようになる 観賞魚それぞれの特徴を把握し、概要を説明することができるようになる (こどもたちにも理解できるやさしい言葉で解説することができるようになること) (特に東北における身近な観賞魚ともなる日本産淡水魚について解説できるようになること) 観賞魚における展示の基本用語を解説、および、レイアウトのポイントを説明できるようになる						
評価方法と基準	筆記試験 ←100点満点で判定する 実技課題 ←ボトルアクアリウムを10点満点で判定する 筆記試験を90%、実技課題を10%とする計100%が成績となる (判定基準、評価における上記判定の割合については講義内で解説する)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/10	講義	アクアリウムについて説明できる	ワークシート:アクアリウム
2	4/24	講義	形態(金魚の尾)について説明できる	ワークシート:形態(金魚)
3	5/8	講義	色彩(金魚の色)について説明できる	ワークシート:色彩と模様(金魚)
4	5/22	講義	金魚の品種・天然記念物について説明できる	ワークシート:品種、天然記念物(金魚)
5	5/29	講義	特殊な飼育水について説明できる	ワークシート:特殊な飼育水
6	6/5	講義	観賞魚の状態を把握し説明できる	ワークシート:観賞魚の状態把握
7	6/12	講義	コイ・ニシキゴイの概要を説明できる	ワークシート:コイ・ニシキゴイ
8	6/19	講義	品評会の意義について説明できる	ワークシート:品評会
9	6/26	講義	アクアリウムにおけるレイアウトを説明できる	ワークシート:水槽レイアウト
10	7/3	講義	流木・岩石について説明できる	ワークシート:流木・岩石
11	7/10	講義	ボトルアクアリウムについて説明できる	ワークシート:ボトルアクアリウム
12	7/17	演習	ボトルアクアリウム制作について説明できる	実技課題:ボトルアクアリウムの準備
13	7/24	講義	前期授業のまとめ	前期学習内容について復習をしておく
14	8/21	試験	筆記試験	前期学習内容について復習をしておく
15	8/28	講義	振り返り	試験で間違った問題について復習をする
準備学習 時間外学習		授業内で使用するワークシートのノートへの転記がよい。		
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/> 資料プリント、ワークシート、タオル、容器(ボトル)、アクセサリ類、水生生物飼育に関係する用具 (演習時に必要なもの)				

科目名 (英)	水族館研究Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	岡村淳市
	(Aquarium Study Ⅱ)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	通年
学科・コース	エコ・コミュニケーション科Ⅰ部						
教員の略歴	民営、公立、公営の3形態の水族館に勤務、展示・教育普及部門を経験する。学芸員有資格者						
授業の学習内容	<p><主に1年生を連れての水族館見学・特別講義> 水族館の4つの役割「種の保存」「教育・環境教育」「調査」「研究」を意識して情報を得る。 水族館を楽しむための準備をし、ゲスト(1年生)を連れて見学する。 現役の水族館の飼育員からの特別講義を通して、今後の水族館について考える。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 水族館の4つの役割が、実際の水族館だとの取り組みに当たるのか知る。 1年生ドルフィンの顔と名前を一致させる。 自分だったら水族館のどの役割に興味があるのか、1つ明確にピックアップする。 						
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> 引率をする際のタイムスケジュールの作成、引率をする際の取り組み 50% ワークシート 50% 						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月13日	講義	「水族館研究Ⅱ」で行う授業内容ガイダンス	
2	4月20日	講義	水族館見学のしおり作り	
3	4月25日	講義	特別講義「命の重みについて」理解ができる	
4	4月25日	講義	特別講義「命の重みについて」理解ができる	
5	4月27日	講義	水族館見学のしおり・名札完成、当日の想定ができる	
6	5月8日	演習	1年生の引率役としてコミュニケーションを取りつつ計画的に水族館の見学ができる	
7	5月8日	演習	1年生の引率役としてコミュニケーションを取りつつ計画的に水族館の見学ができる	
8	5月8日	演習	1年生の引率役としてコミュニケーションを取りつつ計画的に水族館の見学ができる	
9	5月8日	演習	1年生の引率役としてコミュニケーションを取りつつ計画的に水族館の見学ができる	
10	5月18日	講義	特別講義前事前学習(桂浜水族館)	
11	5月29日	講義	特別講義(桂浜水族館) 鰭脚類の飼育に関して	
12	6月22日	講義	現在の日本の水族館の課題 トレーナートレーニングに関して理解ができる	
13	7月6日	講義	海外の飼育員の動物との向き合い方について理解ができる	
14	8月28日	講義	特別講義(美ら海水族館) イルカの繁殖について	
15	8月31日	講義	水族館の4つの役割に関して説明ができる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	魚病学 (Fish Pathogy)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	岡村淳市
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
教員の略歴	<p>民営、公立、公営の3形態の水族館に勤務、展示・教育普及部門を経験する。学芸員有資格者</p>						
授業の学習内容	<p>疾病に対する基礎知識を習得した後、実際に水産施設等で発生する病種を学習する。合わせて、発生から診断・対処・拡大防止に至る一連の流れを把握する。初動対応の一助となる思考と専門的な知識を養う。</p>						
到達目標	<p>①感染症の概説、罹患の仕組みを理解する。 ②病種や分類とその特徴が区別できるようになる。 ③有事の際に初動対応が取れるような方策を養う。</p>						
評価方法と基準	<p>記述試験60% 授業内評価40% (記述試験 :理解度、解説・文章力を評価) (授業内評価:受講姿勢、発言および出席率を評価)</p>						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	魚病の種類や流行の仕組みを知る。	配布資料巻末の「まとめ」を各自復習
2		講義	ウイルス病の原因・症状を知る。	〃
3		講義	細菌病の原因・症状を知る。	〃
4		講義	寄生虫病の原因・症状を知る。	〃
5		講義	真菌病の原因・症状を知る。	〃
6		講義	中毒症、非生物由来の原因を知る。	〃
7		講義	栄養障害の原因・由来を知る。	〃
8		講義・演習	水産試験場での防疫指導や疾病対策	〃
9		講義・演習	水産教育機関での疾病対策を知る。	〃
10		講義	持続的養殖生産確保法の解釈を知る	〃
11		講義	特定疾病の概要や具体例を知る。	〃
12		講義	実用化された魚病対策や動向を知る	〃
13		講義	各巻末資料の「まとめ」を解説する。	
14		講義	記述テスト	
15		講義	試験結果の質疑・回答および解説	
準備学習 時間外学習			授業予定テーマの予習および各巻末まとめ問題の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 各回配布資料				

科目名 (英)	水生生物飼育管理応用Ⅱ (Advanced Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅱ)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	朝比奈理一
	学科・コース	エコ・コミュニケーション科Ⅰ部	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分
教員の略歴	アクアプロジェクトナッシュビルにて、生体やアクア商品の販売や外部施設のメンテナンス業務に従事しています。						
授業の学習内容	アクアルーム内に設備された水槽設備器具を使用して、実際に生体を飼育しながら生体管理方法、取り扱い方法など必要なスキルを身につける。何度も繰り返し作業を行うことで確実なものとする。状況に合わせ判断・行動できるような能力を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生体の取り扱い方、接し方を学び、長期飼育できる能力を身につける。 ・飼育器具などの設備の仕組みを理解し、適切に運用できるようになる。 ・生体の飼育環境を一から作り上げ、それを維持する能力を身につける。 						
評価方法と基準	試験60% / 授業内評価40%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1	/	演習	飼育器具・用品・設備の説明と	新しく学ぶ(海水用)機材の名称と役割がわかる	
2	/	演習	一年次のふりかえり		
3	/	演習	水槽のレイアウト方とトリミング方法 ※1年次における講義に補足		
4	/	演習	海水魚をとりまく世界 ※濾過経路と輸入について理解する		
5	/	演習	海水水槽メンテナンス管理方法 ※海水水槽の清掃・管理ができる ※人工海水をつくることのできる		
6	/	演習			
7	/	演習			
8	/	演習	ライブロックについて ※ライブロックの取り扱い方法と役割が理解できる		
9	/	演習	海水水槽管理の実践 ※水槽の状況を見て、作業内容と組み立てられる ※海水の交換を、海水の作成からできる ※水質検査を行い結果に応じて適した対応ができる		
10	/	演習			
11	/	演習			
12	/	演習			
13	/	演習			
14	/	試験	筆記テスト		
15	/	演習	テストの答え合わせ、ふりかえり		
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>					

科目名 (英)	トレーニング応用 (Advanced Aquatic Animal Training)	必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	2	担当教員	三田舞
	学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義・演習・実 習等	総時間 (単位)	30 2	開講区分 前・後・通 年・集中等
教員の略歴	動物系専門学校卒業後 ドッグパフォーマンスの経験を経て、犬のフリーディング、トレーニングを行う						
授業の学習内 容	一年生で学んだトレーニング技術を使い、ショーを企画し実践する。						
到達目標	一つのステージをみんなで作り上げていく。トレーニング技術を身につける。動物を扱う意識を高める。						
評価方法と基準	定期試験80% 出席率20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	犬慣れ、トレーニング方針の説明	
2	/	演習	トレーニング・学祭に向けてのトレーニング	
3	/	演習	トレーニング・学祭に向けてのトレーニング	
4	/	演習	トレーニング・学祭に向けてのトレーニング	
5	/	演習	トレーニング・学祭に向けてのトレーニング	
6	/	演習	トレーニング・学祭に向けてのトレーニング	
7	/	演習	トレーニング・学祭に向けてのトレーニング	
8	/	演習	トレーニング・学祭に向けてのトレーニング	
9	/	演習	トレーニング・学祭に向けてのトレーニング	
10	/	演習	パフォーマンストレーニング	
11	/	演習	パフォーマンストレーニング	
12	/	演習	パフォーマンストレーニング	
13	/	演習	パフォーマンストレーニング	
14	/	試験		
15	/	振り返り	後期に向けてのトレーニングプラン作成	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	卒業研究 (Graduation Study)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	阿部翔平
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	通年
教員の略歴	大学卒業後、南紀白浜アドベンチャーワールド、アニマルカフェ、八木山動物公園で飼育員として勤務						
授業の学習内容	グループごとに自らテーマを設定し、自主的に観察、調査を積み重ね、卒業制作展を主な目標として抄録やポスターの作成、口頭発表の準備を行う。						
到達目標	水族館や動物園、その他の動植物飼育施設では日々の飼育業務だけでなく、希少な動植物の保護および繁殖、飼育環境の改良、改善のために生態や行動をよく観察し、飼育方法や繁殖方法の確立、より良い飼育環境作りを目指すことも大切な仕事となっており、その重要性は年々高まってきている。その基礎となるのが「研究」という視点、思考であり、自分で調べ考えた事柄を客観的に他者に伝わる形にまとめ上げプレゼンテーションする力を身に付ける。						
評価方法と基準	授業内評価20%、その他80%(研究への取り組み方、目標への到達度、プレゼンテーションのクオリティ)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	演習	ガイダンス(「研究とは?」)、テーマの考え方について	事前に何をしたいか確認
2	／	演習	企業プロジェクト、企画について(チーム決め)	書籍、インターネットによる研究テーマの模索
3	／	演習	同上	同上
4	／	演習	中間発表① 仮テーマ発表	パワーポイント
5	／	演習	関連する小論文、ニュースなどグループ発表	自主的な飼育作業、フィールド調査など
6	／	演習	同上	同上
7	／	演習	同上	同上
8	／	演習	同上	同上
9	／	演習	中間発表② 経過報告、テーマ再確認	パワーポイント
10	／	演習	関連する小論文、ニュースなどグループ発表	自主的な飼育作業、フィールド調査など
11	／	演習	同上	同上
12	／	演習	同上	同上
13	／	演習	同上	同上
14	／	演習	中間発表③ 経過報告	パワーポイント
15	／	演習	前期のまとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				